

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年5月28日
【事業年度】	第25期（自平成21年3月1日至平成22年2月28日）
【会社名】	株式会社ジェーソン
【英訳名】	J A S O N C O . , L T D .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼会長 太田 万三彦
【本店の所在の場所】	千葉県柏市大津ヶ丘二丁目8番5号
【電話番号】	(04)7193-0911(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼経理財務部長 斎藤 重幸
【最寄りの連絡場所】	千葉県柏市大津ヶ丘二丁目8番5号
【電話番号】	(04)7193-0911(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼経理財務部長 斎藤 重幸
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第21期 平成18年2月	第22期 平成19年2月	第23期 平成20年2月	第24期 平成21年2月	第25期 平成22年2月
売上高 (千円)	13,163,438	14,749,829	16,173,056	18,552,117	19,741,238
経常利益 (千円)	654,175	665,422	636,930	757,922	520,248
当期純利益 (千円)	380,460	389,504	444,535	434,131	290,965
純資産額 (千円)	1,016,241	1,331,068	1,696,889	2,039,160	2,239,102
総資産額 (千円)	4,281,489	4,769,474	5,046,231	6,254,440	5,825,743
1株当たり純資産額 (円)	79.32	103.89	132.45	159.16	174.77
1株当たり当期純利益金額 (円)	29.70	30.40	34.70	33.88	22.71
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	23.7	27.9	33.6	32.6	38.4
自己資本利益率 (%)	46.0	33.2	29.4	23.2	13.6
株価収益率 (倍)	-	-	8.4	7.4	9.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	376,424	541,234	729,147	1,281,900	288,693
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	102,451	335,694	197,378	326,358	333,940
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	243,107	142,664	541,234	216,561	31,601
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	557,141	620,017	610,551	1,349,532	695,295
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	135 (195)	137 (241)	145 (283)	152 (360)	167 (412)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 第22期以前の株価収益率については、当該期間において当社株式は非上場でありますので記載しておりません。

4. 第21期において、平成17年8月31日付で株式1株につき2株の分割を行っております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第21期 平成18年2月	第22期 平成19年2月	第23期 平成20年2月	第24期 平成21年2月	第25期 平成22年2月
売上高 (千円)	13,177,156	14,749,168	16,172,689	18,546,808	19,753,206
経常利益 (千円)	639,653	654,948	633,574	750,299	517,881
当期純利益 (千円)	371,133	386,476	454,557	426,637	288,784
資本金 (千円)	320,300	320,300	320,300	320,300	320,300
発行済株式総数 (千株)	12,812	12,812	12,812	12,812	12,812
純資産額 (千円)	1,001,583	1,313,383	1,689,226	2,024,004	2,221,764
総資産額 (千円)	4,300,559	4,771,384	5,070,966	6,270,401	5,838,273
1株当たり純資産額 (円)	78.18	102.51	131.85	157.98	173.41
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額) (円)	5.80 (-)	6.04 (-)	7.10 (-)	7.10 (-)	7.10 (-)
1株当たり当期純利益金 額 (円)	28.97	30.17	35.48	33.30	22.54
潜在株式調整後1株当 り当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	23.3	27.5	33.3	32.3	38.1
自己資本利益率 (%)	45.5	33.4	30.3	23.0	13.6
株価収益率 (倍)	-	-	8.2	7.5	9.1
配当性向 (%)	20.0	20.0	20.0	21.3	31.5
従業員数 (外、平均臨時雇用者 数) (人)	134 (195)	136 (241)	144 (283)	151 (360)	166 (412)

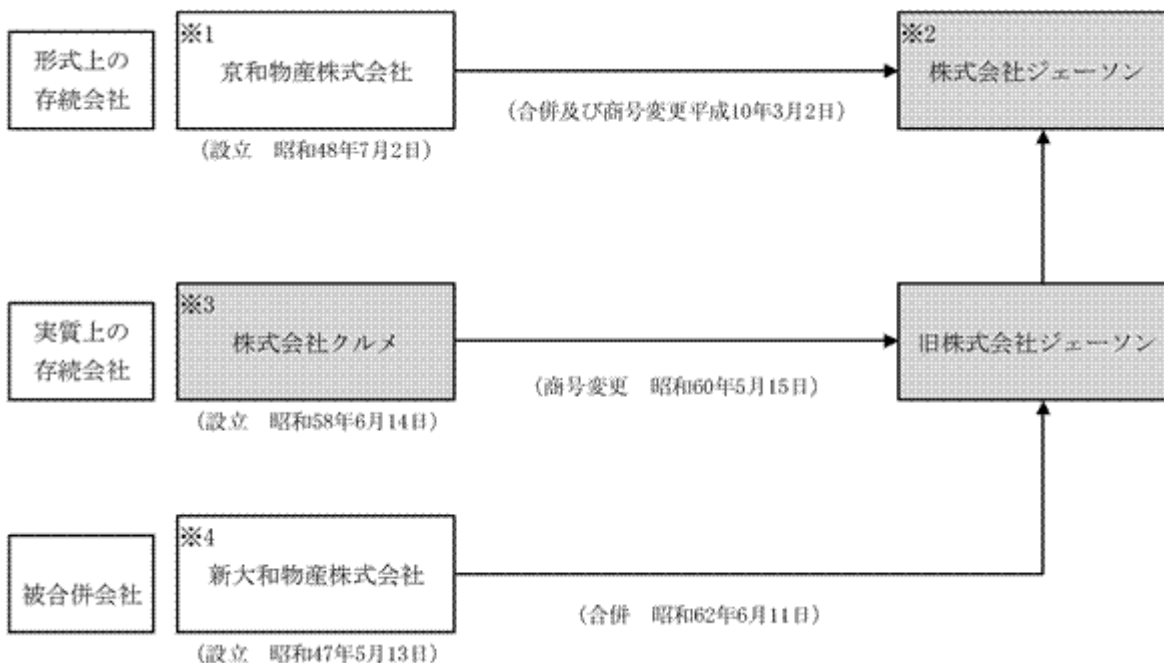
- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。  
 3. 第22期以前の株価収益率については、当該期間において当社株式は非上場でありますので記載しておりませ  
 ん。  
 4. 当社は、平成17年8月31日付で株式1株につき2株の分割を行っております。

## 2【沿革】

はじめに

当社（昭和48年7月2日設立、平成10年3月2日京和物産株式会社から株式会社ジェーソンに商号変更、本店所在地千葉県東葛飾郡沼南町大津ヶ丘二丁目8番5号、額面金額500円）は株式会社ジェーソン（昭和58年6月14日設立、昭和60年5月15日株式会社クルメから株式会社ジェーソンに商号変更、本店所在地千葉県東葛飾郡沼南町大津ヶ丘二丁目8番5号、額面金額5万円、以下「旧株式会社ジェーソン」という）の株式の額面金額を変更するため平成10年3月2日を合併期日として同社を吸収合併し、同社の資産、負債及び権利義務の一切を引き継ぎました。

合併前の当社は事業全体の一部を担っていたのみであり、法律上消滅した旧株式会社ジェーソンが実質上の存続会社であるため、この「有価証券報告書」では別段の記載のない限り、実質上の存続会社について記載いたします。



- 1 京和物産株式会社  
本店：千葉県東葛飾郡沼南町大津ヶ丘二丁目8番5号
- 2 株式会社ジェーソン  
本店移転：昭和63年11月1日  
本店：千葉県流山市南流山一丁目1番12号  
本店移転：平成2年10月1日  
本店：千葉県東葛飾郡沼南町大津ヶ丘二丁目8番5号  
市町合併：平成17年3月28日  
本店：千葉県柏市大津ヶ丘二丁目8番5号
- 3 株式会社クルメ  
本店：埼玉県川口市青木五丁目11番11号
- 4 新大和物産株式会社  
本店：千葉県松戸市松戸2289番地

年月	事項
昭和58年 6月	埼玉県川口市青木五丁目11番11号に衣料品、日用雑貨品等を販売する株式会社クルメを資本金10,000千円で設立。
昭和59年12月	埼玉県和光市にディスカウント・ストア ジェーソン和光店（1号店）を開店、営業開始。
昭和60年 5月	商号を株式会社ジェーソンに変更。
昭和62年 6月	千葉県松戸市松戸2289番地の新大和物産株式会社を合併。
昭和63年11月	千葉県流山市南流山一丁目1番12号に本店移転。
平成元年 5月	商品仕入を目的に千葉県東葛飾郡沼南町に100%出資の子会社株式会社スパイラルを資本金90,000千円で設立。
平成 2年10月	千葉県東葛飾郡沼南町大津ヶ丘二丁目8番5号に本店移転。
平成 6年 2月	社内のコンピュータシステムを従来の汎用コンピュータからパソコン主体の社内LANシステムに全面切替え。
平成10年 3月	千葉県東葛飾郡沼南町の京和物産株式会社を形式上の存続会社として、実質上の存続会社株式会社ジェーソンを合併、形式上の存続会社の商号を株式会社ジェーソンと変更。
平成11年 5月	東京都葛飾区に現在展開のバラエティ・ストアのモデルとなるジェーソン葛飾白鳥店（15号店）を開店、営業開始。
平成13年 4月	商品の自動補充システムJIOSを社内で開発、全店全部門で本格運用開始。
平成17年12月	埼玉県鳩ヶ谷市にジェーソン鳩ヶ谷里店（50号店）を開店、営業開始。
平成19年 3月	千葉県鎌ヶ谷市にジェーソン東鎌ヶ谷店（60号店）を開店、営業開始。
平成19年 4月	大阪証券取引所ヘラクレス市場に上場。
平成20年 2月	千葉県船橋市にジェーソン船橋習志野台店（70号店）を開店、営業開始。
平成21年 1月	千葉県松戸市にジェーソン松戸河原塚店（80号店）を開店、営業開始。
平成21年11月	埼玉県北本市にジェーソン北本店（90号店）を開店、営業開始。

### 3【事業の内容】

#### (1) 当社グループの概要

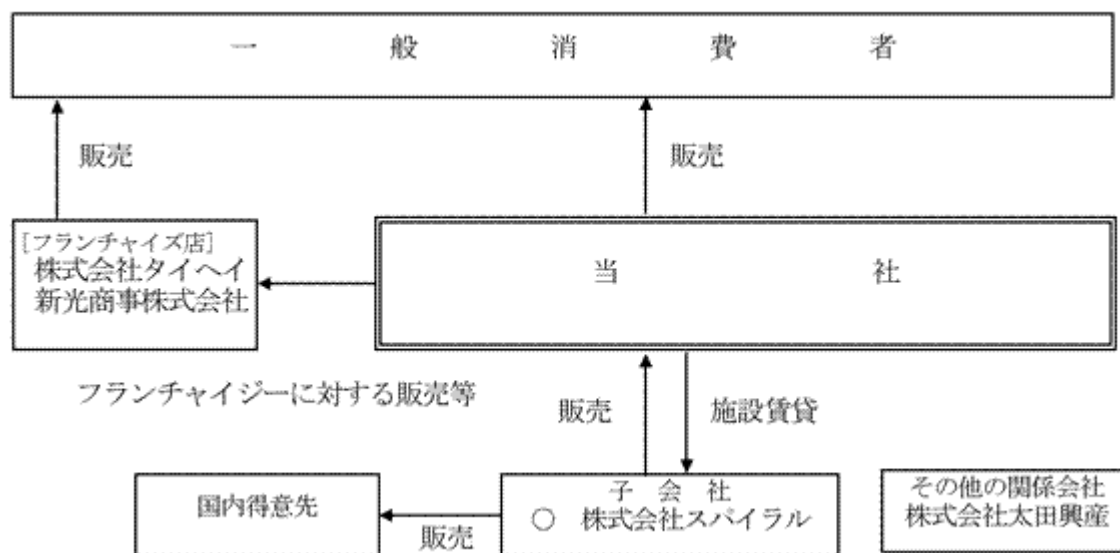
当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（株式会社ジェーソン）及び子会社1社（株式会社スパイラル）で構成されており、当社は消耗頻度の高い家庭用必需品の総合小売を主な事業の内容とし、また一部ではフランチャイズ展開もしております。

子会社は、当社業務を補完するための商品調達を主な業務として行っております。したがって、当社グループの事業に係わる位置づけは次のとおりであり、子会社の主要取引先はグループ会社となっております。

商品部門の区分は次のとおりであります。

- 衣料服飾・インテリア・・・紳士衣料、子供衣料、婦人衣料、肌着・靴下類、靴鞆傘ベルト、寝具室内装飾品
- 日用品・家庭用品・・・家庭電化製品、家事調理用品、時計・メガネ、カメラ、携帯電話、玩具・ホビー、文具、カー用品、スポーツ・レジャー用品、自転車、日曜大工品、園芸、キッチン用品、化粧雑貨、洗剤・清掃用品、ペット用品、ベビー用品
- 食料品・・・食料品全般、加工肉（生鮮食品は除く）
- 酒類・・・酒類全般
- その他商品・・・煙草、催事
- その他営業収入・・・ロイヤリティ、受取物流費、テナント賃料等

#### [事業系統図]



印は連結子会社

(2) 店舗政策

当社は過去、ディスカウント・ストア（以下D.S.と略）業態による出店を行ってきましたが、平成10年4月に開店した練馬中村橋店以降、バラエティ・ストア（以下V.S.と略）業態による店舗展開の方針を変更しました<sup>(注)</sup>。このため当社にはD.S.、V.S.両方の店舗が存在しますが、今後はV.S.業態による店舗展開に注力する方針であります。当社はV.S.業態による店舗展開を行うことにより、投資額及びオペレーションコストを低く抑え、多店舗展開を行いやすくし、小商圏の消費者の利便性を向上させる方針であります。

(注) 当社の考える業態区分

バラエティ・ストア（V.S.）

消耗頻度の高い非食品及び加工食品を幅広く揃えた、利便性の高い総合店舗であります。商圏人口は1.5万人から4万人と想定し、売り場面積100坪から500坪（標準は150坪から200坪）の店舗において、低価格帯の商品のみを品揃えする業態であります。

ディスカウント・ストア（D.S.）

品揃えはV.S.と重複しますが、高額品（家電製品、カー用品、家具、時計等）まで取り扱う店舗であります。商圏人口は5万人以上を想定し、売り場面積500坪から3,000坪の店舗において、高額ブランド商品や家電製品を目玉商品として値引販売する業態であります。

(3) 商品政策

当社における商品の仕入ルートとしましては、主に国内メーカー、商社等から安定的な供給を受けております。このほか、他業態（大手コンビニエンスストア・チェーン等）における商品政策の変更等によりメーカーや商社に返品された商品を買付けすることなどにより、仕入価格の低減に努めております。この結果、消費者に対して価格訴求力のある商品を販売し、かつ当社も適切な粗利を確保するという経営方針の実現を図っております。

店舗への商品供給に際しては、自社で開発したJIOS（商品自動補充発注システム）を利用し、千葉県柏市の物流センターから全店舗へ配送しております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
(株)スパイラル(注)	千葉県柏市	90	卸売業	所有 100	従業員1名出向 当社へ商品供給している 役員の兼任3名 当社と施設賃貸借及び業務委託契約を締結している
(その他の関係会社)					
(株)太田興産	東京都葛飾区	100	不動産賃貸業	被所有 32.97	当社役員の兼任 1名

(注) 特定子会社に該当しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年2月28日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(人)
小売事業	167 (412)
合計	167 (412)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員)は、年間の平均人員(8時間換算)を( )外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成22年2月28日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
166 (412)	32.9	7.8	4,039,954

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除いております。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員)は、年間の平均人員(8時間換算)を( )外数で記載しております。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

提出会社においては、下記のとおり労働組合が結成されております。

(イ) 名称 ジェーソン労働組合

(ロ) 上部団体 UIゼンセン同盟

(ハ) 結成年月日 昭和63年3月7日

(ニ) 組合員数 平成22年2月28日現在730名

なお、労使関係については、円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。



## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度における日本経済は、米国に端を発した世界的な金融危機の影響で急激な円高や株価の急落、さらには輸出の落ち込みなどにより一気に悪化し、個人消費も一層冷え込みました。小売業界におきましても、雇用情勢の変化による先行き不透明感から、消費者の生活防衛意識は一段と高まり、また、価格競争が一段と強まるなど、各企業ともその経営環境はより厳しさを増しております。

以上のような情勢のもと、当社グループとしましては、消費者の暮らしを守り育てるべく将来に向けた持続的成長を促進し、さらなる業績の向上を目指し、営業面におきましては、より低価格の生活必需商品群の品揃えの強化、また、コンビニエンス性の高い、地域における生活便利店としての機能を果たすべく店舗運営を行ってまいりました。

新規出店に関しましては、平成21年4月、千葉県松戸市に「松戸五香店」、埼玉県さいたま市に「浦和三室店」、千葉県千葉市に「千葉みつわ台店」、「千葉大宮台店」、5月に埼玉県越谷市に「越谷花田店」、7月に千葉県船橋市に「船橋金杉店」、10月に千葉県柏市に「柏豊四季店」、千葉県松戸市に「松戸古ヶ崎店」、11月に埼玉県北本市に「北本店」、そして12月に茨城県つくば市に「つくば竹園店」と千葉県松戸市に「松戸五香西店」を出店し、昨年同様計11店舗を出店することができました。また、当連結会計年度における閉鎖店舗はありませんでした。これらにより当連結会計年度末の直営店舗数は82店舗となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は197億41百万円（前期比106.4%）、営業利益は4億80百万円（前期比66.2%）、経常利益は5億20百万円（前期比68.6%）、当期純利益は2億90百万円（前期比67.0%）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度に比べ654百万円減少し695百万円となりました。

当連結会計年度における営業活動の結果、使用した資金は288百万円（前年同期は得られた資金が1,281百万円）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益および仕入債務の減少、法人税等の支払等によるものであります。

投資活動の結果、使用した資金は333百万円（前期比102.3%）となりました。これは主に有形固定資産の取得および敷金及び保証金の差入等によるものであります。

財務活動の結果、使用した資金は31百万円（前期比14.6%）となりました。これは主に借入金の返済によるものであります。

## 2【仕入及び販売の状況】

### (1) 仕入実績

当連結会計年度の仕入実績を商品部門別に示すと、次のとおりであります。

商品部門の名称	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)	
	仕入高(千円)	前年同期比(%)
衣料服飾・インテリア	433,477	85.3
日用品・家庭用品	4,097,266	102.7
食料品	8,440,492	109.6
酒類	1,533,745	104.2
その他商品	4,008	60.4
その他営業収入	310,491	80.2
合計	14,819,482	105.4

(注) 本表の金額に、消費税等は含まれておりません。

### (2) 販売実績

当連結会計年度の販売実績を商品部門別に示すと、次のとおりであります。

商品部門の名称	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)	
	売上高(千円)	前年同期比(%)
衣料服飾・インテリア	672,939	97.4
日用品・家庭用品	5,531,293	104.0
食料品	10,577,364	109.1
酒類	1,729,242	104.7
その他商品	7,317	84.1
その他営業収入	1,223,080	102.6
合計	19,741,238	106.4

(注) 本表の金額に、消費税等は含まれておりません。

当連結会計年度の販売実績を地域別に示すと、次のとおりであります。

地域の名称	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)	
	売上高(千円)	前年同期比(%)
千葉県	6,645,817	110.1
東京都	6,187,538	103.8
埼玉県	3,275,587	116.6
茨城県	2,214,418	94.9
栃木県	194,795	89.1
その他営業収入	1,223,080	102.6
合計	19,741,238	106.4

(注) 本表の金額に、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

世界不況の高波の前に個人消費はますます冷え込むことが予想され、小売業界におきましては、激しい戦いがさらに続くであろうことは論を待ちません。

このような環境のもと、当社グループは経営の基本方針に基づき以下の課題に取り組んでまいります。

#### (1) 業種業態を越えた競合

当社のような小商圈型店舗に対するニーズは今後とも拡大するものと考えておりますが、一方で、小商圈に対応したコンビニエンスストア、ドラッグストア、100円ショップ、スーパーマーケット等業種業態を越えた競合はますます激化するものと考えております。

このような環境のもと、当社グループといたしましては、“地域に根ざした安くて便利な生活必需消耗品店”のチェーン化をさらに推進してまいります。お客様に対しては、欲しい商品が欲しい時に手軽に気軽に購入できる売り場づくりを、従業員にとっては、誰もが無理なく無駄なく作業が出来る作業環境づくりを、経営的見地からは粗利益率の向上とローコストストアオペレーションをさらに追求してまいります。

#### (2) コンプライアンスの徹底

企業を取り巻く各種法令、一例を挙げますと店舗運営に関する諸法令、出店に関する諸法令、取扱商品に関する諸法令等々、各種法令及び関連する指針等についての当社グループの遵守責任は、年々重要性を増しております。

このような状況の中、当社グループといたしましては、コンプライアンスに関わる諸問題について、社内を横断的に統括する「リスク管理委員会」を設置し、役職者全員のコンプライアンス意識を一層高め、監査役監査、内部監査を含めたチェック体制の強化に努めてまいります。

#### 4【事業等のリスク】

当社グループの財政状態、経営成績及び株価等に影響を及ぼす可能性のあるリスクとして、以下の事項等があります。なお、文中における将来に関する事項は、本書提出日（平成22年5月28日）現在において当社グループが判断したものであります。

##### (1) 競合について

当社グループは主に、消耗頻度の高い家庭用必需品をバラエティ・ストア（V.S.）業態及びディスカウント・ストア（D.S.）業態による「ジェーソン」店舗にて消費者に販売しております。中でも主力形態であるV.S.店舗は、小商圏を対象として、消耗頻度の高い非食品及び加工食品を低価格帯で幅広く揃えた、利便性の高い小規模店舗というコンセプトにより展開しております。

V.S.の運営においては、当社グループはローコストオペレーション、商品政策等による差別化を図っていく方針がありますが、取扱商品はコンビニエンスストア、ドラッグストア、100円ショップ、スーパーマーケット等の異なる業態と重複するものも多く、これらの業態と競合しております。

今後、業種業態の垣根を越えた競合が激化した場合には、売上高の低下または採算の悪化等により、当社グループの業績は変動します。

##### (2) 業績の変動要因

「ジェーソン」店舗を運営する当社（本書提出会社）の業績は、下表のように推移しております。

回次 決算年月	第21期 平成18年2月	第22期 平成19年2月	第23期 平成20年2月	第24期 平成21年2月	第25期 平成22年2月
売上高 (千円)	13,177,156	14,749,168	16,172,689	18,546,808	19,753,206
経常利益 (千円)	639,653	654,948	633,574	750,299	517,881
当期純利益 (千円)	371,133	386,476	454,557	426,637	288,784

（注）売上高には、消費税等は含まれておりません。

第21期は、店舗数の順調な増加と粗利益率の改善等により増収増益となりました。

第22期は、9店舗の新規出店が寄与し、増収増益となりました。

第23期は、増収となりましたが、上場費用等の発生により、経常利益は減益となりました。また、1店舗閉店に伴う受取補償金により、当期純利益は増益となりました。

第24期は、11店舗の新規出店により増収となり経常利益も増益となりましたが、当期純利益は前期のような多額の特別利益がなく減益となりました。

第25期は、増収にもかかわらず粗利益率が悪化し、販売費及び一般管理費が増大したことにより、減益となりました。

##### (3) 商品仕入に伴うリスク

当社グループにおける商品の仕入ルートとしましては、国内のメーカー、商社等からの安定的な供給に加え、他業態（大手コンビニエンスストア・チェーン等）における商品政策の変更等によりメーカーや商社に返品された商品を相対的に低価格で買い付ける場合もあります。この結果、消費者に対しては価格訴求力のある商品を販売でき、かつ当社グループも適切な粗利を確保するという経営方針の実現を図っております。しかし、後者のような低価格でのスポット仕入の機会が減少した場合には、当社グループの商品の価格優位性または採算が低下し、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

また仕入先の選定に際しては細心の注意を払っておりますが、品質に問題のある商品を仕入れ、店舗において販売した場合には、当社グループの信用力の低下、あるいは返品等に伴う損失が発生する可能性があります。

#### (4) 出店地域等

平成22年5月28日現在、「ジェーソン」店舗の出店状況は、直営店86店（千葉県28店、東京都27店、埼玉県20店、茨城県10店、栃木県1店）及びFC店3店となっております。

現在、全店舗への商品の配送は、千葉県柏市にある物流センターから行っており、当面の出店予定地域としましても物流センターから2時間以内に商品配送できる地域を考えております。

将来、当社グループの業容の拡大に伴い、出店地域を広範囲に選定するようになった場合は、新たな物流委託先との契約が必要であり、配送時間またはコスト面で効率性が損なわれる可能性があります。

また出店先の選定については店舗の採算性をもっとも重視しており、初期投資額、入居保証金や賃借料等の出店条件、敷地面積、店舗面積、商圈人口等を考慮しておりますが、上記の出店条件等に合致する物件がない場合、出店計画を変更することもあるため、これに伴って当社の経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 借入金への依存度

当社グループは出店資金及び運転資金の一部を金融機関からの借入金により調達しております。平成22年2月末現在、連結貸借対照表における長期及び短期借入金の合計額は998,346千円であり、これは連結純資産の0.45倍に相当します。

当社グループは金利情勢の変化に対応し金利変動リスクを軽減するために、変動金利と固定金利の変換を目的とする金利スワップ取引及び金利キャップを行っておりますが、将来の金利の変動を含む経営環境等の変化によっては、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 法的規制

大規模小売店舗立地法（以下、「大店立地法」という）等による規制について

小売店舗の出店においては、大店立地法の規制があります。規制される項目の主なものは、駐車場・駐輪場の収容台数、荷捌き施設の面積及び時間帯、駐車場の出入り口の位置、開店時刻及び閉店時刻等と多岐にわたっております。当社グループも店舗網の拡大を図るためには出店等につき店舗面積によっては「大店立地法」の規制の対象になる可能性があり、経営計画に遅れが出る可能性があります。しかしながら、当社グループが平成10年以降注力し、今後の店舗展開を計画しているV.S.は、その対象面積以下である関係上、その影響は小さいものと考えています。

また、上記以外にも当社グループが出店する建築物については都市計画法や建築基準法による規制があり、これらに違反することは一義的には建築物の家主の法令違反となりますが、当社グループも店舗の撤退や改築による休店等の形で影響を受けることがあります。

官公庁の許認可及び免許登録が必要とされる項目について

##### a．食品衛生法に基づく食品営業許可

食品販売に伴う衛生上の危害発生防止及び公衆衛生の向上・推進を図る見地から、食品の規格、添加物、衛生管理、営業許可等が定められております。新店の場合は、新規での営業許可申請となりますが、既存店につきましては6～7年に一度更新が必要とされます。当社グループは現在に至るまで、同法による行政処分を受けたことはありませんが、万が一処分を受けるような事態になった場合、その内容によっては、食品販売や乳製品販売に支障をきたし、経営計画に遅れが出る可能性があります。

##### b．たばこ事業法に基づく許可

たばこの販売には、生産者及び販売者の健全な発展と租税の安定的確保に貢献することを目的に、財務局長の許可を得ることが定められております。許可には、大規模小売店舗（売場面積400㎡以上）向けの特定小売販売業許可と一般小売店舗向けの一般小売販売業許可の2種類があり、当社の取得状況は特定小売販売業許可1店舗であります。また、たばこ販売に関しては未成年者の保護育成の観点から「未成年者喫煙禁止法」が制定されており、違反販売業者に対しては罰則が課されているだけでなくたばこ販売免許の取消しもあり得ます。当社グループは現在に至るまで、同法による行政処分を受けたことはありませんが、万が一処分を受けるような事態になった場合は、経営計画に遅れが出る可能性があります。

c. 酒税法に基づく免許

酒類の販売には、酒税の保全上、酒類の需要と供給を維持することを目的に、所轄税務署長の免許を得ることが定められております。酒類販売に関しては未成年者の保護育成の観点から「未成年者飲酒禁止法」が制定されており、違反販売業者に対しては厳しい罰則が課されているだけでなく酒類販売免許の取消しもあり得ます。万が一、そのような処分を受けるような事態になった場合は、経営計画に支障をきたす可能性があります。

「容器包装に係る分別収集および再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」による規制について

同法の目的は、消費者・地方自治体・事業者がそれぞれ役割を分担して容器包装廃棄物の再商品化(リサイクル)を促進することとされ、家庭ごみ(一般廃棄物)の中で多くの割合を占める容器包装廃棄物(トレー・レジ袋・包装紙等)についてその減量化を図り循環型社会を実現するための法律であります。

当社は小売業の特定事業者に該当し、リサイクル義務の対象となるプラスチック容器・紙容器・ガラス瓶・ペットボトル等の総量の排出量を総額で計算し、再商品化義務量を算出します。これに財団法人日本容器包装リサイクル協会に委託する単価を乗じて費用を負担することが義務付けられております。

なお、平成19年4月からの改正法の施行により、前年度において容器包装を用いた量が50トン以上の小売業は年1回の定期報告及び容器包装の使用の合理化のための取組が義務付けられることとなっております。当社グループはこれらの法規制の対象となるため対応に向けて準備を進めておりますが、このために追加で費用が発生する可能性があります。

個人情報の取扱いについて

当社グループでは、当社各店舗を利用する顧客が自転車などの商品購入の際に氏名、住所、電話番号等の個人情報を知り得る立場にあります。当社が知り得た情報については、不正侵入防止や保管状況の徹底、データへのアクセス制限など個人情報の流出を防止するための諸施策を講じております。しかしながら、万一、社外からの侵入や社内管理体制の問題から、これらの個人情報が外部に漏洩した場合には、当社への信用低下や損害賠償請求等によって当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) フランチャイズ(FC)店の展開

当社グループは平成22年5月28日現在、2社(3店舗)とFC契約を締結しておりますが、現在、当社グループにおいては新規フランチャイジーの募集は行っていないため、FC店からは今後、大幅な収益の増加は見込んでおりません。

(8) 人材の確保及び育成

当社グループにおいては、店舗数の拡大に伴う人材の確保及び育成は重要な課題となっております。特に店長クラスの優秀な人材が確保または育成できなかった場合には、当社グループの出店計画に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 天候要因について

当社グループの収入である一般消費者への商品販売は、天候不順や異常気象により、販売数量の計画差異が生じ、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 敷金・保証金等の与信管理、債権管理について

当社グループは、店舗等の物件の賃借に際し、登記簿謄本の入手による権利関係の確認をはじめとする当該物件に関する情報の調査収集を行うと共に、契約内容の詳細検討(賃貸価格、敷金とその他諸条件(事業用定期借地契約または普通建物賃貸借契約)、契約開始日と契約期間、解約に関する諸条件(敷金・原状回復)等)を行っております。当社は、積極的な出店によって多額の敷金・保証金を計上しておりますが、保証金供与先の財政状態によっては、債権回収が困難になる可能性があります。また、当社都合による中途解約においては、当社が締結している長期賃貸借契約の契約内容によっては、返還されない可能性があります。平成22年2月末の敷金及び保証金残高は1,075,541千円であります。

(11) 固定資産の減損について

当社グループの営業用資産について実質的価値の下落や事業計画の見直し等により個店別収益が著しく低下し、固定資産の減損処理が今後必要となった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積もり

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般的に公正妥当と認められている会計基準により作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりまして経営者による会計方針の採用、資産・負債及び収益・費用の計上については会計基準及び実務指針等により見積もりを行っております。この見積もりについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っておりますが、見積もりには不確実性が伴うため、実際の結果はこれらと異なることがあります。

### (2) 財政状態の分析

当連結会計年度の資産については、前連結会計年度に比べ428,697千円減少して5,825,743千円（前期比93.1%）となりました。これは主に、前連結会計年度末日と当連結会計年度末日は、ともに金融機関休業日でありましたが、前連結会計年度は、末日休日による仕入代金の未払発生で現金及び預金が増加したのに対して、当連結会計年度は末日以前日に仕入代金を支払ったことにより現金及び預金が668,225千円減少したこと、店舗増加に伴う敷金及び保証金が144,192千円増加したこと等によるものであります。

負債については、前連結会計年度に比べ628,639千円減少して3,586,640千円（前期比85.1%）となりました。これは主に、現金及び預金の減少理由と同理由によって、買掛金で732,883千円の減少、未払法人税等で53,056千円減少および借入金69,482千円の増加等によるものであります。

純資産については、前連結会計年度に比べ199,941千円増加して2,239,102千円（前期比109.8%）となりました。これは主に、利益剰余金が200,000千円増加したこと等によるものであります。

### (3) 経営成績の分析

当連結会計年度の売上高については、主に新規11店舗の出店の効果もあり前連結会計年度末に比べ1,189,131千円増加して、19,741,238千円（前期比106.4%）となりました。

販売費及び一般管理費については、新規11店舗の出店に係わるランニングコストの増加等により、450,933千円増加の4,411,485千円（前期比111.4%）となりました。

営業外収益については、固定資産賃貸料等により106,493千円（前期比104.4%）となり、営業外費用については、固定資産賃貸費用等により66,695千円（前期比95.9%）となりました。

特別利益については、貸倒引当金戻入額により15,918千円を計上しております。特別損失については、減損損失により10,027千円の計上となりました。

以上の要因により、当連結会計年度は、当期純利益290,965千円の計上となりました。

### (4) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度に比べ654,236千円減少し695,295千円となりました。

当連結会計年度における営業活動の結果、使用した資金は288,693千円（前年同期は得られた資金が1,281,900千円）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益および仕入債務の減少、法人税等の支払等によるものであります。

投資活動の結果、使用した資金は333,940千円（前期比102.3%）となりました。これは主に有形固定資産の取得および敷金及び保証金の差入等によるものであります。

財務活動の結果、使用した資金は31,601千円（前期比14.6%）となりました。これは主に借入金の返済によるものであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、出店にかかる店舗設備の取得が主なものであり継続的に実施しております。その総額は222,915千円であり、建物及び構築物が101,672千円、車両運搬具が3,895千円、工具器具備品が27,736千円、リース資産が89,612千円であります。また、当連結会計年度において、10,027千円の減損損失を計上しております。減損損失の内容については「第5 経理の状況 1.連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結損益計算書関係) 3 減損損失」に記載のとおりであります。

#### 2【主要な設備の状況】

当社及び連結子会社における主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成22年2月28日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					売場面積(m <sup>2</sup> )	従業員数 (人)
		建物及び 構築物	土地 (面積m <sup>2</sup> )	リース 資産	その他	合計		
千葉県 沼南店(柏市) 他26店舗	販売設備	287,108	746,816 [4,458.15] (56,618.89)	50,747	13,766	1,098,438	18,246.01	44 (143)
東京都 葛飾白鳥店(葛飾区) 他24店舗	販売設備	88,786	- (31,778.36)	-	11,613	100,399	11,740.72	30 (126)
埼玉県 和光店(和光市) 他18店舗	販売設備	80,710	- (30,628.70)	20,505	11,825	113,040	9,643.36	20 (84)
茨城県 新取手店(取手市) 他9店舗	販売設備	203,765	110,138 [4,010.23] (30,392.57)	7,366	5,053	326,323	7,914.33	15 (50)
栃木県 小山店(小山市)	販売設備	1,880	- (1,781.00)	-	366	2,246	499.20	1 (4)
本部その他	-	32,407	318,892 [12,783.02]	-	13,733	365,033	-	56 (5)

(注) 1. 事業所名のうち「本部その他」は、本部、遊休不動産、管理設備及び投資不動産であります。なお、投資不動産は連結貸借対照表上、投資その他の資産の「その他」に計上しております。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具及び工具器具備品であります。

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

4. 土地については、自社所有面積を〔 〕で、賃借面積を( )で記載しております。

5. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員)は年間の平均人員(8時間換算)を( )外数で記載しております。

6. 売場面積には、賃借している施設を含んでおります。

7. 上記のほか、リース契約による主要な賃借設備は次のとおりであります。なお、リース契約件数が多く、多岐にわたるうえ単位も一律でないため、数量の記載は省略しております。

設備の内容	リース期間	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)	摘要
販売設備及び本部	5年	63,501	134,654	所有権移転外 ファイナンス・リース取引

##### (2) 国内子会社

該当事項はありません。



### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、主に店舗の出店の際に発生するものでありますが、現状における出店の形態は「空き店舗の賃借」を主体に考えておりますので、小額なものでありかつ修繕費等に組み込まれる費用のものが多く状況となっております。

また、下表に示すとおり資金の調達方法に際しましても、小額な投資であるがゆえに、新規に調達すべき範囲がなく、自己資金で賄う予定であります。

#### (1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定		売場面積 (㎡)
		総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
提出会社 蕨南町店 (埼玉県蕨市)	販売設備	18,000	-	自己資金	平成22年3月	平成22年4月	547.20
提出会社 船橋山野町店 (千葉県船橋市)	販売設備	15,000	-	自己資金	平成22年8月	平成22年8月	468.60

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 重要な設備の除却

提出会社におきまして、第26期(翌連結会計年度)に2店舗の閉鎖を予定しております。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成22年2月28日)	提出日現在発行数(株) (平成22年5月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,812,000	12,812,000	大阪証券取引所	単元株式数 100株
計	12,812,000	12,812,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成17年8月31日 (注)	6,406,000	12,812,000	-	320,300	-	259,600

(注)平成17年8月31日付にて1:2の株式分割を実施しております。

#### (6)【所有者別状況】

平成22年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株 式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	3	8	10	2	1	1,091	1,115	-
所有株式数 (単元)	-	228	207	45,212	30	40	82,395	128,112	800
所有株式数の 割合(%)	-	0.18	0.16	35.29	0.02	0.03	64.31	100	-

(7) 【大株主の状況】

平成22年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
太田 万三彦	東京都葛飾区	4,512,000	35.21
(株)太田興産	東京都葛飾区柴又七丁目12番32号	4,224,800	32.97
太田 磨草子	東京都葛飾区	800,000	6.24
太田 実花子	東京都葛飾区	400,000	3.12
太田 晃太郎	東京都葛飾区	400,000	3.12
太田 圭太郎	東京都葛飾区	400,000	3.12
ジェーソン社員持株会	千葉県柏市大津ヶ丘二丁目8番5号	247,620	1.93
佐々木 桂一	岡山県倉敷市	122,600	0.95
北辰商事(株)	東京都武蔵野市吉祥寺本町一丁目8番6号	100,100	0.78
(有)後藤企画	東京都清瀬市中清戸四丁目847番7号	80,300	0.62
計	-	11,287,420	88.10

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,811,200	128,112	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	12,812,000	-	-
総株主の議決権	-	128,112	-

【自己株式等】

平成22年2月28日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、将来の事業拡大と企業体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、業績と連動した安定的な配当を継続していくことを基本方針としております。

また、当社の配当につきましては、原則として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、決定機関は株主総会であります。

第25期の配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり7.10円（配当総額90,965千円）の配当支払いを平成22年5月27日開催の定時株主総会において決議し、実施しました。この結果、第25期の配当性向は31.5%となりました。

内部留保資金につきましては、店舗開発等に有効活用してまいりたいと考えております。

なお、当社は会社法第454条第5項に基づく中間配当制度を採用しております。

## 4【株価の推移】

### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	平成18年2月	平成19年2月	平成20年2月	平成21年2月	平成22年2月
最高(円)	-	-	949	310	309
最低(円)	-	-	250	150	197

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット - 「ヘラクレス」におけるものであります。  
なお、平成19年4月26日付をもって同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価については該当事項はありません。

### (2)【最近6ヶ月の月別最高・最低株価】

月別	平成21年9月	平成21年10月	平成21年11月	平成21年12月	平成22年1月	平成22年2月
最高(円)	265	257	225	309	235	213
最低(円)	241	222	200	197	200	197

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット - 「ヘラクレス」におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役社長 兼会長 (代表取締役)		太田 万三彦	昭和32年1月14日生	昭和54年3月 北辰商事(株)取締役就任 昭和60年5月 当社代表取締役専務 昭和63年3月 (有)太田興産(現(株)太田興産) 代表取締役(現任) 平成元年5月 当社代表取締役社長 平成2年7月 京和物産(株)代表取締役 平成2年8月 (株)スパイラル代表取締役 平成7年6月 三谷商事(株)取締役 平成10年3月 京和物産(株)と合併、当社代表取 締役 平成15年5月 取締役会長 平成17年8月 (株)スパイラル取締役 平成20年2月 当社代表取締役社長兼会長 (現任)	(注)2	4,512,000
取締役	営業本部長	高鳥 幸太郎	昭和43年1月12日生	平成2年4月 当社入社 平成15年5月 内部監査室長 平成15年12月 店舗運営部長 平成16年2月 取締役店舗運営部長 平成21年1月 (株)スパイラル代表取締役 (現任) 平成21年3月 取締役営業本部長(現任)	(注)2	11,300
取締役	店舗開発本部長 兼経営企画室長	板谷 浩志	昭和26年8月20日生	昭和49年4月 (株)富士銀行(現(株)みずほ銀 行)入社 平成16年12月 当社入社 平成16年12月 経営企画室長 平成18年5月 取締役経営企画室長 平成18年8月 取締役管理本部長 平成20年5月 (株)スパイラル取締役(現任) 平成21年3月 取締役店舗開発本部長兼 経 営企画室長(現任)	(注)2	-
取締役	管理本部長兼 経理財務部長	斎藤 重幸	昭和32年8月3日生	昭和55年4月 (株)箕輪不動産入社 平成13年2月 当社入社 平成15年2月 経理部長 平成19年5月 取締役経理部長 平成21年3月 取締役管理本部長兼 経理財務部長(現任)	(注)2	6,600
監査役	常勤	上條 資男	昭和13年2月22日生	昭和29年2月 (株)オギノ入社 平成3年7月 当社入社 平成6年4月 取締役 平成7年6月 常務取締役 平成15年2月 常勤監査役(現任) 平成15年2月 (株)スパイラル監査役(現任)	(注)3	60,000
監査役	非常勤	岡本 政明	昭和19年5月23日生	昭和59年11月 司法試験合格 昭和62年4月 東京第一弁護士会登録 平成11年4月 日弁連人権擁護委員 平成16年4月 東京三会法律相談連絡協議会 議長 平成18年5月 監査役(現任)	(注)4	2,000
監査役	非常勤	宮本 啓一郎	昭和33年9月7日生	昭和59年10月 監査法人朝日会計社(現あず さ監査法人)入社 平成6年1月 宮本公認会計士事務所開設 平成20年4月 当社顧問 平成20年5月 監査役(現任)	(注)4	-
計						4,591,900

(注)1. 監査役岡本政明及び監査役宮本啓一郎は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 平成22年5月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
3. 平成21年5月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
4. 平成20年5月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (1) コーポレート・ガバナンスに関する当社の基本的な考え方

当社は日本においてバラエティ・ストアという業態のチェーン展開を行うことにより、日々の暮らしに密着した大衆実用品を徹底した安価で提供し、消費者の生活を守り育てることを企業理念としております。

また、その実現のため、企業価値の最大化をめざし、経営戦略の策定、迅速な意思決定を行っており、コーポレート・ガバナンスにつきましても経営の最も重要な課題のひとつと捉えております。

当社は、透明かつ公正な経営を最優先に考えコーポレート・ガバナンスのより一層の強化をめざし、株主総会や取締役会の充実、監査役会の機能強化、また積極的な情報開示を行うことを基本方針としております。

#### (2) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

##### 会社の機関の基本説明及び内容

当社は、会社機関として会社法に規定する取締役会及び監査役会制度を採用しております。取締役会は、代表取締役の業務執行の監督及び監視を行っております。監査役会は、取締役会の業務執行の監督について監査を行う体制を執っております。

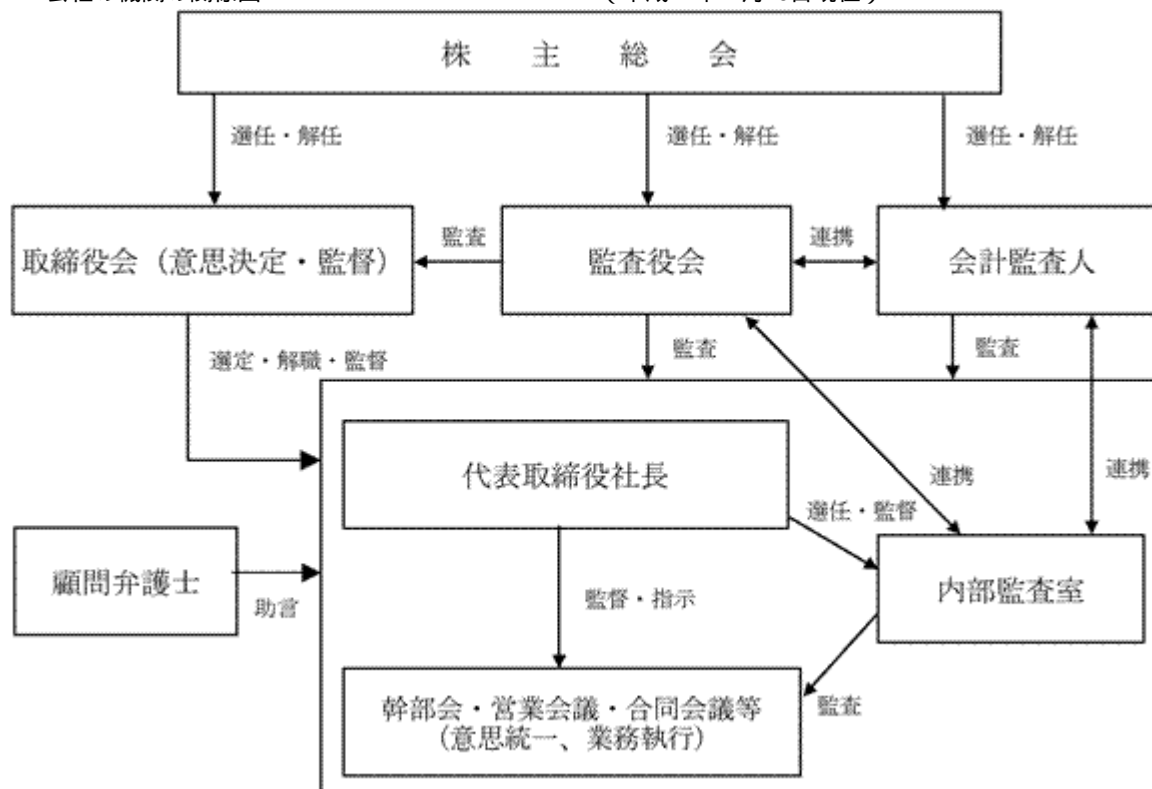
当社の取締役会は、当事業年度末現在4名で構成しており、会社法で定められた事項及び当社の経営に関する重要事項等について審議・決定する機関とし、経営環境の変化に即応するため毎月定例で開催しております。

この他に、緊急を要する場合には、その都度臨時取締役会を招集し、付議すべき議案について機動的に審議しております。以上のことにより、取締役会での審議検討は各取締役によって十分な意見交換がなされており、取締役の独自性及び取締役相互間の監督体制が保たれております。

監査役会は3名で構成されており、1名は常勤監査役であり2名は社外監査役であります。経営の適法性・効率性について総合的にチェックする機関として月1回以上定期的に会合を開いており、コーポレート・ガバナンスまたコンプライアンス等の観点から、取締役の業務執行を監視監督しております。各監査役は、毎回の取締役会にて議案の審議、決裁の詳細を傍聴し、必要に応じ意見を述べております。

会社の機関の関係図

(平成22年2月28日現在)



##### 内部統制システムに関する基本方針について

###### a. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

内部統制システムの一環として「内部監査室」を設置しており、経営活動の全般について、方針・計画・手続きの妥当性及び業務執行の有効性等について内部監査を実施しており、社内業務改善に向け具体的な助言・勧告を行っていく。

社内を横断的に統括する「リスク管理委員会」を設置し、コンプライアンス管理体制の構築及び維持向上を図る。

経営の透明性とコンプライアンス経営の観点から、法律顧問契約を締結している弁護士に、日常発生する法律諸問題について助言と指導を適時受ける。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会議事録、稟議書、各種契約書、その他職務の執行に係る重要情報を文書規程に従い適切に保全・管理する。

情報の不正使用及び漏洩を防止するべく、主としてシステム面からアクセス権の制限、パスワード利用等の効果的な情報セキュリティ施策を推進する。

個人情報の管理については、法令・ガイドライン等を遵守するとともに、マニュアルや内部監査等の活用によって管理意識の浸透とモラル意識の向上に努める。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

各部門がそれぞれの部門に関するリスク管理を行い、研修やマニュアルの作成・配布・教育・訓練等を必要に応じ行う。

新たに生じたリスクへの対応が必要な場合は速やかに対応責任者となる取締役を定め、リスクに対する未然防止や個別の対応・再発防止に取り組む。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

定時の取締役会を毎月1回、また臨時取締役会を必要に応じて開催し、会社法規定事項及び経営の重要事項について審議及び決定を行う。

「迅速かつ的確な経営及び執行判断」を補完するものとして、常勤役員及び幹部社員を構成員とする定例の幹部報告会を毎週1回、その他必要ある場合は随時開催して、関係会社を含めた経営課題についての報告を行う。

将来の事業環境を踏まえ、中期経営方針及び各年度ごとの全社的な業務執行方針と予算を策定し、各部門においては目標達成の活動状況を代表取締役に定期的に報告する。

e. 当社及び関係会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

「関係会社管理規程」に基づき、担当部門において子会社の経営及び業績を管理するとともに、業務面についても適正を確保する体制をとる。

年度予算制度に基づきグループ全体の予算・業績管理を実施する。

グループ全体に影響を及ぼす重要な事項については、担当取締役が他の取締役に呼びかけ、必要に応じ会議を開催し多面的な検討を経て慎重に決定する仕組みを設ける。

f. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

現在、監査役の職務の補佐すべき使用人はいないが、今後、監査役からの要請に応じて監査役の業務補助のための監査役スタッフを置くこととし、その人事については、取締役と監査役が意見交換する。なお、監査役スタッフは兼務も可能とするが、その任命、異動、評価、懲戒は、監査役の意見を尊重した上で行うものとし、当該職務を遂行する場合には取締役からの指揮命令は受けないものとする。

g. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は下記事項を速やかに監査役に報告する。

当社及びグループ全体に影響を及ぼす重要事項に関する決定

当社及びグループ会社の業績状況

内部監査室が実施した監査結果

法令その他に違反する恐れのある事項

その他、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見したとき

h. その他監査役が監査が実効的に行われることを確保するための体制

内部監査室は、内部監査活動の状況と結果、他の部署からの報告受領事項、その他の職務の状況を常勤監査役に対して遅滞なく報告する

代表取締役と常勤監査役にて、月1回程度意見交換を行う

監査役会は、会計監査人より監査計画を事前に受領し、定期的に監査実施報告を受領するほか、必要に応じて監査実施状況の聴取を行う

i. 財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の適正性を確保及び金融商品取引法に基づく内部統制報告書の有効かつ適切な提出に向け、当社における内部統制システムの構築を行う。また、その体制が適正に機能することを継続的に評価し、必要な是正を行うこととする。

#### 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部統制上、内部監査機能は特に重要な機能であると認識しております。内部監査を行う部門としましては代表取締役の指示のもと、内部監査室がその任にあたり、専任である1名が年間計画に基づき、各部門の監査を実施しております。監査結果は、直接代表取締役に文書で報告されております。被監査部門に対しては、代表取締役名での改善指示書を発し、その後遅滞なく改善状況報告書を提出させることにより、内部統制システムを充実させ、内部監査の実効性を確保しております。常勤監査役に対しても、改善指示及び改善状況報告を定期的に行っております。

また、常勤監査役及び社外監査役は、取締役会に出席するほか、取締役等から直接業務執行について聴取し、営業報告の聴取や重要な決議資料や会計資料の閲覧などを適宜行っております。このほか、監査役は、会計監査人と定期的に協議を行い、監査内容について意見交換を行っており、それぞれの相互連携が図られております。

#### 会計監査の状況

所属する監査法人名	公認会計士の氏名等	関与継続年数
あずさ監査法人	指定社員業務執行社員 渡邊 宣昭	-
	指定社員業務執行社員 堀切 進	-
	指定社員業務執行社員 小出 健治	-

(注) 関与継続年数については、全員7年以内であるため記載を省略しております。

監査業務に関わる補助者の構成 公認会計士 6名 その他 9名

#### 社外取締役及び社外監査役との関係

当社は社外取締役を有しておりません。また社外監査役は、当社との間に人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係を有しておりません。

#### 顧問弁護士

当社は、法律事務所の弁護士と顧問契約を締結しており、法律問題全般に係る助言及び指導を受ける体制を整えております。

#### (3) リスク管理体制の整備の状況

当社はリスク管理を経営上の極めて重要な活動と認識し、企業価値及び信頼性の向上を目的として、事業活動に伴う各種のリスクに適切に対応すべく「リスク管理委員会」を設置し、体制を整えております。当社をめぐる主要なリスク要因を抽出し、それぞれのリスクに対する予防策及び事後対策を策定しております。また、リスク管理の活動は各部門に管理責任者を指名し、リスク管理活動を行わせるとともに、リスク管理に関する重要事項は速やかに報告させる体制をとっております。

#### (4) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及び整備状況

当社は、市民生活の秩序や安全に脅威を及ぼし、健全な経済活動に障害となる反社会的勢力との一切の関係を遮断するため、規程の改定や契約書の見直し等社内体制の整備、社員教育やセミナー参加等を行い、反社会的勢力ならびに団体による不当な要求には断固とした態度でこれを拒絶する。

反社会的勢力による不当な要求に対しては、総務人事部を対応統括部署として、警察、各都道府県の暴力団追放センターおよび弁護士、その他外部の専門機関との緊密な連携により、関係部門と協議の上、即時対応する。



(5)役員報酬の内容

区分	報酬	
	支給人員	支給額
取締役	名	千円
(うち社外取締役)	4 (-)	77,233 (-)
監査役	3	10,541
(うち社外監査役)	(2)	(3,500)
合計	7	87,774

(6)取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。

これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(7)取締役の定数

当社は、取締役の定数を10名以内とする旨定款に定めております。

(8)取締役及び監査役の選任の決議要件

当社は、取締役及び監査役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

(9)自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(10)株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(11)中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年8月31日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	-	-	32,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	-	-	32,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査報酬の決定方針については、監査計画の妥当性等を検証した上で決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成20年3月1日から平成21年2月28日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成21年3月1日から平成22年2月28日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、第24期（平成20年3月1日から平成21年2月28日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、第25期（平成21年3月1日から平成22年2月28日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成20年3月1日から平成21年2月28日まで）及び当連結会計年度（平成21年3月1日から平成22年2月28日まで）の連結財務諸表並びに前事業年度（平成20年3月1日から平成21年2月28日まで）及び当事業年度（平成21年3月1日から平成22年2月28日）の財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受けております。

1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成21年2月28日)	当連結会計年度 (平成22年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,376,853	708,628
売掛金	169,284	136,794
たな卸資産	1,445,211	-
商品	-	1,406,243
貯蔵品	-	10,577
繰延税金資産	35,755	37,176
その他	131,060	142,995
貸倒引当金	60	60
流動資産合計	3,158,105	2,442,356
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,521,311	1,613,942
減価償却累計額	857,811	929,573
建物及び構築物(純額)	663,499	684,369
土地	1,069,978	1,069,978
リース資産	-	89,612
減価償却累計額	-	10,992
リース資産(純額)	-	78,619
その他	219,850	251,185
減価償却累計額	165,992	194,828
その他(純額)	53,857	56,357
有形固定資産合計	1,787,335	1,889,324
無形固定資産		
投資その他の資産	155,511	162,492
投資有価証券	1,086	980
長期貸付金	109,700	108,500
敷金及び保証金	931,348	1,075,541
繰延税金資産	149,122	143,753
その他	175,570	200,216
貸倒引当金	213,340	197,421
投資その他の資産合計	1,153,487	1,331,569
固定資産合計	3,096,335	3,383,386
資産合計	6,254,440	5,825,743

	前連結会計年度 (平成21年2月28日)	当連結会計年度 (平成22年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,394,083	1,661,200
短期借入金	1 88,400	1 332,800
1年内返済予定の長期借入金	1 451,324	1 373,068
リース債務	-	18,509
未払法人税等	135,952	82,895
賞与引当金	30,456	31,438
その他	508,241	500,359
流動負債合計	3,608,457	3,000,270
固定負債		
長期借入金	1 389,140	1 292,478
リース債務	-	64,722
退職給付引当金	78,803	81,273
役員退職慰労引当金	109,225	127,251
その他	29,653	20,643
固定負債合計	606,822	586,370
負債合計	4,215,280	3,586,640
純資産の部		
株主資本		
資本金	320,300	320,300
資本剰余金	259,600	259,600
利益剰余金	1,458,926	1,658,926
株主資本合計	2,038,826	2,238,826
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	334	275
評価・換算差額等合計	334	275
純資産合計	2,039,160	2,239,102
負債純資産合計	6,254,440	5,825,743

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 3月 1日 至 平成21年 2月28日)	当連結会計年度 (自 平成21年 3月 1日 至 平成22年 2月28日)
売上高	18,552,117	19,741,238
売上原価	13,866,123	14,849,301
売上総利益	4,685,993	4,891,936
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 3,960,551	<sup>1</sup> 4,411,485
営業利益	725,442	480,451
営業外収益		
受取利息	5,424	7,290
受取手数料	17,091	25,571
固定資産賃貸料	56,034	55,981
その他	23,470	17,649
営業外収益合計	102,021	106,493
営業外費用		
支払利息	15,992	12,850
固定資産賃貸費用	51,388	51,537
その他	2,160	2,307
営業外費用合計	69,541	66,695
経常利益	757,922	520,248
特別利益		
貸倒引当金戻入額	13,711	15,918
特別利益合計	13,711	15,918
特別損失		
固定資産除却損	<sup>2</sup> 1,206	-
減損損失	-	<sup>3</sup> 10,027
特別損失合計	1,206	10,027
税金等調整前当期純利益	770,426	526,139
法人税、住民税及び事業税	313,199	231,186
法人税等調整額	23,095	3,987
法人税等合計	336,295	235,173
当期純利益	434,131	290,965

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 3月 1日 至 平成21年 2月28日)	当連結会計年度 (自 平成21年 3月 1日 至 平成22年 2月28日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	320,300	320,300
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	320,300	320,300
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	259,600	259,600
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	259,600	259,600
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	1,115,760	1,458,926
当期変動額		
剰余金の配当	90,965	90,965
当期純利益	434,131	290,965
当期変動額合計	343,166	200,000
当期末残高	1,458,926	1,658,926
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	1,695,660	2,038,826
当期変動額		
剰余金の配当	90,965	90,965
当期純利益	434,131	290,965
当期変動額合計	343,166	200,000
当期末残高	2,038,826	2,238,826
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	1,229	334
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	895	58
当期変動額合計	895	58
当期末残高	334	275
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	1,229	334
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	895	58
当期変動額合計	895	58
当期末残高	334	275
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	1,696,889	2,039,160
当期変動額		
剰余金の配当	90,965	90,965
当期純利益	434,131	290,965
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	895	58
当期変動額合計	342,271	199,941
当期末残高	2,039,160	2,239,102

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 3月 1日 至 平成21年 2月28日)	当連結会計年度 (自 平成21年 3月 1日 至 平成22年 2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	770,426	526,139
減価償却費	89,664	114,223
減損損失	-	10,027
貸倒引当金の増減額（ は減少）	13,711	15,918
賞与引当金の増減額（ は減少）	1,392	981
退職給付引当金の増減額（ は減少）	6,518	2,469
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	18,750	18,026
受取利息	5,424	7,290
支払利息	15,992	12,850
固定資産除却損	1,206	-
売上債権の増減額（ は増加）	57,932	32,489
たな卸資産の増減額（ は増加）	196,395	28,390
仕入債務の増減額（ は減少）	992,032	732,883
その他	114,856	15,068
小計	1,699,876	4,575
利息の受取額	5,690	7,323
利息の支払額	15,871	12,647
法人税等の支払額	407,794	287,944
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,281,900	288,693
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	88,192	27,321
定期預金の預入による支出	44,146	13,332
有形固定資産の取得による支出	121,863	129,523
有形固定資産の売却による収入	4,102	-
無形固定資産の取得による支出	849	8,591
敷金及び保証金の差入による支出	252,272	231,020
敷金及び保証金の回収による収入	389	20,228
その他	90	977
投資活動によるキャッシュ・フロー	326,358	333,940
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	7,400	244,400
長期借入れによる収入	400,000	320,000
長期借入金の返済による支出	533,432	494,918
リース債務の返済による支出	-	10,457
配当金の支払額	90,529	90,626
財務活動によるキャッシュ・フロー	216,561	31,601
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	738,980	654,236
現金及び現金同等物の期首残高	610,551	1,349,532
現金及び現金同等物の期末残高	1,349,532	695,295



【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
1. 連結の範囲に関する事項	連結子会社の数 1社 主要な連結子会社の名称 株式会社 スパイラル	同左
2. 持分法の適用に関する事項		
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。	同左
4. 会計処理基準に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法	<p>イ 有価証券            その他有価証券            時価のあるもの            決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）            時価のないもの            移動平均法による原価法</p> <p>ロ たな卸資産            (イ) 店舗在庫商品            売価還元法による原価法            (ロ) センター在庫商品            移動平均法による原価法</p> <p>(ハ) 貯蔵品            最終仕入原価法</p>	<p>イ 有価証券            その他有価証券            時価のあるもの            同左</p> <p>時価のないもの            同左</p> <p>ロ たな卸資産            (イ) 店舗在庫商品            売価還元法による低価法            (ロ) センター在庫商品            移動平均法による原価法            (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)            (ハ) 貯蔵品            最終仕入原価法            (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)</p> <p>(会計方針の変更)            当連結会計年度より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)が適用されたことに伴い、通常の販売目的で保有する配送センター内の商品につきましては、従来、移動平均法による原価法によっておりましたが、移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。            また、店舗在庫商品の評価基準及び評価方法につきましては、従来、売価還元法による原価法によっておりましたが、当連結会計年度より売価還元法による低価法に変更しております。</p>

項目	前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法	<p>イ 有形固定資産 定率法によっております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。 なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。 （追加情報） 法人税法の改正（「所得税法等の一部を改正する法律」（平成19年3月30日法律第6号））及び「法人税法施行令の一部を改正する政令」（平成19年3月30日政令第83号）に伴い、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に達した連結会計年度の翌連結会計年度より取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。 これにより営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ1,977千円減少しております。</p> <p>ロ 無形固定資産 定額法によっております。 なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。 ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。</p>	<p>この結果、従来の方法によった場合と比較して、当連結会計年度の売上総利益、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ16,446千円減少しております。</p> <p>イ 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法によっております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。 なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。</p> <p>ロ 無形固定資産 同左</p> <p>ハ リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>

項目	前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
(3) 重要な引当金の計上基準	<p>ハ 投資不動産（投資その他の資産「その他」を含む。） 定率法によっております。 なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。</p> <p>イ 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>ロ 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。</p> <p>ハ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>ニ 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>二 投資不動産（投資その他の資産「その他」を含む。） 同左</p> <p>イ 貸倒引当金 同左</p> <p>ロ 賞与引当金 同左</p> <p>ハ 退職給付引当金 同左</p> <p>ニ 役員退職慰労引当金 同左</p>
(4) 重要なリース取引の処理方法	<p>リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	
(5) 重要なヘッジ会計の方法	<p>イ ヘッジ会計の方法 金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。</p> <p>ロ ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利スワップ 金利キャップ ヘッジ対象・・・借入金利息</p> <p>ハ ヘッジ方針 金利変動リスクの低減のため、金利スワップ及び金利キャップを行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。</p> <p>ニ ヘッジ有効性評価の方法 金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。</p>	<p>イ ヘッジ会計の方法 金利キャップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております</p> <p>ロ ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利キャップ ヘッジ対象・・・借入金利息</p> <p>ハ ヘッジ方針 金利変動リスクの低減のため、金利キャップを行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。</p> <p>ニ ヘッジ有効性評価の方法 金利キャップについては、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。</p>
(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項	<p>消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p>	<p>消費税等の会計処理 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成20年3月1日 至 平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成21年3月1日 至 平成22年2月28日)
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	同左
6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項	のれん及び負ののれんは発生しておりません。	同左
7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年3月1日 至 平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成21年3月1日 至 平成22年2月28日)
	<p>(リース取引に関する会計基準) 当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>この変更に伴う当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。</p>

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
	<p>(連結貸借対照表)</p> <p>「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用されたことに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品」「貯蔵品」に区分掲記しております。</p> <p>なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品」「貯蔵品」は、それぞれ1,436,063千円、9,148千円であります。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年2月28日)	当連結会計年度 (平成22年2月28日)																																										
<p>1 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">定期預金</td> <td style="text-align: right;">20,000千円</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">211,153千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">959,839千円</td> </tr> <tr> <td>投資不動産</td> <td style="text-align: right;">115,585千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(投資その他の資産「その他」に含む。)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">1,306,579千円</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">担保付債務</td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">38,400千円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">417,996千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">389,140千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">845,536千円</td> </tr> </table>	定期預金	20,000千円	建物	211,153千円	土地	959,839千円	投資不動産	115,585千円	(投資その他の資産「その他」に含む。)		計	1,306,579千円	担保付債務		短期借入金	38,400千円	1年内返済予定の長期借入金	417,996千円	長期借入金	389,140千円	計	845,536千円	<p>1 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">197,596千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">786,856千円</td> </tr> <tr> <td>投資不動産</td> <td style="text-align: right;">116,158千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(投資その他の資産「その他」に含む。)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">1,100,611千円</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">担保付債務</td> <td></td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">302,800千円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">333,132千円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">232,394千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">868,326千円</td> </tr> </table>	建物	197,596千円	土地	786,856千円	投資不動産	116,158千円	(投資その他の資産「その他」に含む。)		計	1,100,611千円	担保付債務		短期借入金	302,800千円	1年内返済予定の長期借入金	333,132千円	長期借入金	232,394千円	計	868,326千円
定期預金	20,000千円																																										
建物	211,153千円																																										
土地	959,839千円																																										
投資不動産	115,585千円																																										
(投資その他の資産「その他」に含む。)																																											
計	1,306,579千円																																										
担保付債務																																											
短期借入金	38,400千円																																										
1年内返済予定の長期借入金	417,996千円																																										
長期借入金	389,140千円																																										
計	845,536千円																																										
建物	197,596千円																																										
土地	786,856千円																																										
投資不動産	116,158千円																																										
(投資その他の資産「その他」に含む。)																																											
計	1,100,611千円																																										
担保付債務																																											
短期借入金	302,800千円																																										
1年内返済予定の長期借入金	333,132千円																																										
長期借入金	232,394千円																																										
計	868,326千円																																										

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)																																												
<p>1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>発送配達費</td><td style="text-align: right;">489,221千円</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td style="text-align: right;">90,050千円</td></tr> <tr><td>給与手当賞与</td><td style="text-align: right;">585,019千円</td></tr> <tr><td>雑給</td><td style="text-align: right;">632,492千円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">30,456千円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">8,339千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">19,187千円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;">1,102,621千円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">88,997千円</td></tr> </table> <p>2 固定資産除却損の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>工具器具備品(有形固定資産「その他」を含む。)</td><td style="text-align: right;">1,206千円</td></tr> </table>	発送配達費	489,221千円	役員報酬	90,050千円	給与手当賞与	585,019千円	雑給	632,492千円	賞与引当金繰入額	30,456千円	退職給付費用	8,339千円	役員退職慰労引当金繰入額	19,187千円	地代家賃	1,102,621千円	減価償却費	88,997千円	工具器具備品(有形固定資産「その他」を含む。)	1,206千円	<p>1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>発送配達費</td><td style="text-align: right;">533,563千円</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td style="text-align: right;">87,774千円</td></tr> <tr><td>給与手当賞与</td><td style="text-align: right;">624,633千円</td></tr> <tr><td>雑給</td><td style="text-align: right;">752,440千円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">31,438千円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">11,936千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">18,789千円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;">1,288,385千円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">113,348千円</td></tr> </table> <p>3 減損損失</p> <p>当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失10,027千円を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">店舗(2店舗)</td> <td style="text-align: center;">茨城県、千葉県</td> <td style="text-align: center;">建物及び構築物、長期前払費用(投資その他の資産「その他」を含む)</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小の単位として、店舗ごとに資産のグルーピングを行っております。</p> <p>閉店が決定した店舗については、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、減損損失(10,027千円)として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物8,802千円、長期前払費用(投資その他の資産「その他」を含む)1,225千円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額によっており、零としております。</p>	発送配達費	533,563千円	役員報酬	87,774千円	給与手当賞与	624,633千円	雑給	752,440千円	賞与引当金繰入額	31,438千円	退職給付費用	11,936千円	役員退職慰労引当金繰入額	18,789千円	地代家賃	1,288,385千円	減価償却費	113,348千円	用途	場所	種類	店舗(2店舗)	茨城県、千葉県	建物及び構築物、長期前払費用(投資その他の資産「その他」を含む)
発送配達費	489,221千円																																												
役員報酬	90,050千円																																												
給与手当賞与	585,019千円																																												
雑給	632,492千円																																												
賞与引当金繰入額	30,456千円																																												
退職給付費用	8,339千円																																												
役員退職慰労引当金繰入額	19,187千円																																												
地代家賃	1,102,621千円																																												
減価償却費	88,997千円																																												
工具器具備品(有形固定資産「その他」を含む。)	1,206千円																																												
発送配達費	533,563千円																																												
役員報酬	87,774千円																																												
給与手当賞与	624,633千円																																												
雑給	752,440千円																																												
賞与引当金繰入額	31,438千円																																												
退職給付費用	11,936千円																																												
役員退職慰労引当金繰入額	18,789千円																																												
地代家賃	1,288,385千円																																												
減価償却費	113,348千円																																												
用途	場所	種類																																											
店舗(2店舗)	茨城県、千葉県	建物及び構築物、長期前払費用(投資その他の資産「その他」を含む)																																											

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	12,812,000	-	-	12,812,000
合計	12,812,000	-	-	12,812,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成20年5月29日 定時株主総会	普通株式	90,965	7.10	平成20年2月29日	平成20年5月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当金の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成21年5月28日 定時株主総会	普通株式	90,965	利益剰余金	7.10	平成21年2月28日	平成21年5月29日

当連結会計年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	12,812,000	-	-	12,812,000
合計	12,812,000	-	-	12,812,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成21年5月28日 定時株主総会	普通株式	90,965	7.10	平成21年2月28日	平成21年5月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当金の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年5月27日 定時株主総会	普通株式	90,965	利益剰余金	7.10	平成22年2月28日	平成22年5月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係 (平成21年2月28日現在)	現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係 (平成22年2月28日現在)
現金及び預金勘定 1,376,853千円	現金及び預金勘定 708,628千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預 金等 27,321千円	預入期間が3ヶ月を超える定期預 金等 13,332千円
現金及び現金同等物 1,349,532千円	現金及び現金同等物 695,295千円
	重要な非資金取引の内容 当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リ ース取引に係る資産及び債務の額は、それぞれ89,612 千円、94,256千円であります。

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)				当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)			
1.リース物件の所有権が借主に移転すると認められるものの以外のファイナンス・リース取引				1.ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 店舗における備品(工具器具備品)であります。 リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4.会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。			
(借主側) (1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				(借主側) (1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)
工具器具備品 (有形固定資産「その他」を含む。)	376,381	175,689	200,691	工具器具備品 (有形固定資産「その他」を含む。)	269,837	136,970	132,867
合計	376,381	175,689	200,691	合計	269,837	136,970	132,867
(2)未経過リース料期末残高相当額 1年内 68,519千円 1年超 133,931千円 合計 202,451千円				(2)未経過リース料期末残高相当額 1年内 53,307千円 1年超 80,623千円 合計 133,931千円			
(3)支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 支払リース料 74,676千円 減価償却費相当額 72,258千円 支払利息相当額 2,338千円				(3)支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 支払リース料 63,501千円 減価償却費相当額 61,777千円 支払利息相当額 2,154千円			
(4)減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				(4)減価償却費相当額の算定方法 同左			
(5)利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。				(5)利息相当額の算定方法 同左			
				(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。			



(有価証券関係)

その他有価証券で時価のあるもの

	種類	前連結会計年度 (平成21年2月28日)			当連結会計年度 (平成22年2月28日)		
		取得原価 (千円)	連結貸借対照 表計上額 (千円)	差額(千円)	取得原価 (千円)	連結貸借対照 表計上額 (千円)	差額(千円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	525	1,086	561	517	980	462
	(2) 債券						
	国債・地方債等	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
	(3) その他	-	-	-	-	-	-
	小計	525	1,086	561	517	980	462
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1) 株式	-	-	-	-	-	-
	(2) 債券						
	国債・地方債等	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
	(3) その他	-	-	-	-	-	-
	小計	-	-	-	-	-	-
合計		525	1,086	561	517	980	462

(デリバティブ取引関係)

1. 取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
<p>(1) 取引の内容 利用しているデリバティブ取引は、金利スワップ及び金利キャップであります。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、将来の金利の変動によるリスク回避を目的としており、投機的取引は行わない方針であります。</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。 ヘッジ会計の方法 金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理によっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利スワップ 金利キャップ ヘッジ対象・・・借入金利息 ヘッジ方針 金利変動リスクの低減のため、金利スワップ及び金利キャップを行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。 ヘッジの有効性評価の方法 金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 金利スワップ及び金利キャップは、市場金利の変動によるリスクを有しております。 なお、取引の契約先は、いずれも信用度の高い国内金融機関であるため、相手方の契約不履行による信用リスクは僅少であると認識しております。</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度等を定めた社内ルールに従い、経理部が行っております。</p>	<p>(1) 取引の内容 利用しているデリバティブ取引は、金利キャップであります。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 同左</p> <p>(3) 取引の利用目的 デリバティブ取引は、借入金利等の将来の金利市場における利率上昇による変動リスクを回避する目的で利用しております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計を行っております。 ヘッジ会計の方法 金利キャップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理によっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利キャップ ヘッジ対象・・・借入金利息 ヘッジ方針 金利変動リスクの低減のため、金利キャップを行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。 ヘッジの有効性評価の方法 金利キャップについては、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。</p> <p>(4) 取引に係るリスクの内容 金利キャップは、市場金利の変動によるリスクを有しております。 なお、取引の契約先は、いずれも信用度の高い国内金融機関であるため、相手方の契約不履行による信用リスクは僅少であると認識しております。</p> <p>(5) 取引に係るリスク管理体制 デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度等を定めた社内ルールに従い、経理財務部が行っております。</p>

2. 取引の時価等に関する事項

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
金利スワップ及び金利キャップを行っておりますが、ヘッジ会計を適用しておりますので、注記の対象から除いております。	金利キャップを行っておりますが、ヘッジ会計を適用しておりますので、注記の対象から除いております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職給付制度として退職一時金制度を採用しております。

2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 (平成21年2月28日)	当連結会計年度 (平成22年2月28日)
	(千円)	(千円)
退職給付債務	78,803	81,273
退職給付引当金	78,803	81,273

なお、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
	(千円)	(千円)
勤務費用	8,339	11,936
退職給付費用	8,339	11,936

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

前連結会計年度 (平成21年2月28日)	当連結会計年度 (平成22年2月28日)
簡便法を採用しておりますので、基礎率等について記載しておりません。	同左

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
(千円)	(千円)
繰延税金資産	繰延税金資産
貸倒引当金損金算入限度超過額	貸倒引当金損金算入限度超過額
86,274	79,837
賞与引当金否認	賞与引当金否認
12,316	12,713
退職給付引当金否認	退職給付引当金否認
31,868	32,867
役員退職慰労引当金否認	役員退職慰労引当金否認
44,170	51,460
商品評価損否認	商品評価損否認
4,293	6,650
未払事業税否認	未払事業税否認
11,640	8,366
減価償却費損金算入限度超過額	減価償却費損金算入限度超過額
20,773	19,383
減損損失否認	減損損失否認
243,106	246,549
その他	その他
7,504	9,446
繰延税金資産小計	繰延税金資産小計
461,950	467,274
評価性引当額	評価性引当額
276,845	286,157
繰延税金資産合計	繰延税金資産合計
185,104	181,117
繰延税金負債	繰延税金負債
その他有価証券評価差額金	その他有価証券評価差額金
227	187
繰延税金負債合計	繰延税金負債合計
227	187
繰延税金資産の純額	繰延税金資産の純額
184,877	180,930
繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。	繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。
流動資産 - 繰延税金資産	流動資産 - 繰延税金資産
35,755	37,176
固定資産 - 繰延税金資産	固定資産 - 繰延税金資産
149,122	143,753
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳
(%)	(%)
法定実効税率	法定実効税率
40.4	40.4
(調整)	(調整)
住民税均等割額	住民税均等割額
1.1	1.7
法人税留保金課税	法人税留保金課税
1.2	0.5
評価性引当額の増減	評価性引当額の増減
1.3	1.8
その他	その他
0.3	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	税効果会計適用後の法人税等の負担率
43.7	44.7
3. 法定実効税率の変更	
繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は40.1%から40.4%に変更しております。	
この変更による影響額は軽微であります。	

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める小売事業の割合がいずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める小売事業の割合がいずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前連結会計年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度から平成18年10月17日公表の、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 企業会計基準第11号)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第13号)を適用しております。

これらの適用による開示対象の追加はありません。

( 1株当たり情報 )

前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
1株当たり純資産額 159円16銭	1株当たり純資産額 174円77銭
1株当たり当期純利益金額 33円88銭	1株当たり当期純利益金額 22円71銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成21年2月28日)	当連結会計年度末 (平成22年2月28日)
純資産の部の合計額(千円)	2,039,160	2,239,102
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	-	-
普通株式に係る当連結会計年度末の純資産額(千円)	2,039,160	2,239,102
1株当たり純資産額の算定に用いられた当連結会計年度末の普通株式の数(株)	12,812,000	12,812,000

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	当連結会計年度 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
当期純利益(千円)	434,131	290,965
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	434,131	290,965
期中平均株式数(株)	12,812,000	12,812,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	88,400	332,800	0.9	-
1年以内に返済予定の長期借入金	451,324	373,068	1.2	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	18,509	1.7	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	389,140	292,478	1.1	平成23年～25年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	64,722	1.7	平成23年～27年
その他有利子負債	-	-	-	-
計	928,864	1,081,577	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	229,288	63,190	-	-
リース債務	18,772	19,041	19,316	7,591

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成21年3月1日 至平成21年5月31日	第2四半期 自平成21年6月1日 至平成21年8月31日	第3四半期 自平成21年9月1日 至平成21年11月30日	第4四半期 自平成21年12月1日 至平成22年2月28日
売上高(千円)	5,038,015	5,076,014	4,758,136	4,869,071
税金等調整前四半期純利益 金額(千円)	217,602	174,961	85,324	48,251
四半期純利益金額 (千円)	93,690	91,639	63,237	42,397
1株当たり四半期純利益金 額(円)	7.31	7.15	4.94	3.31

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成21年2月28日)	当事業年度 (平成22年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,301,441	629,854
売掛金	171,192	138,504
商品	1,436,063	1,406,243
貯蔵品	9,144	10,576
前払費用	126,104	139,837
繰延税金資産	35,702	37,123
その他	4,934	3,263
貸倒引当金	60	60
流動資産合計	3,084,523	2,365,343
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,214,382	1,297,943
減価償却累計額	671,999	728,955
建物(純額)	542,383	568,987
構築物	306,928	315,999
減価償却累計額	185,811	200,617
構築物(純額)	121,116	115,381
車両運搬具	23,915	27,810
減価償却累計額	13,116	18,419
車両運搬具(純額)	10,799	9,391
工具、器具及び備品	195,934	223,374
減価償却累計額	152,876	176,409
工具、器具及び備品(純額)	43,057	46,965
土地	1,069,978	1,069,978
リース資産	-	89,612
減価償却累計額	-	10,992
リース資産(純額)	-	78,619
有形固定資産合計	1,787,335	1,889,324
無形固定資産		
借地権	143,133	143,133
ソフトウェア	2,231	9,244
その他	9,690	9,658
無形固定資産合計	155,055	162,036
投資その他の資産		
投資有価証券	1,086	980
関係会社株式	90,000	90,000
出資金	530	530
長期貸付金	109,700	108,500
長期前払費用	58,384	83,528
繰延税金資産	149,122	143,753
敷金及び保証金	931,348	1,075,541
投資不動産	149,132	149,370
減価償却累計額	32,476	33,212
投資不動産(純額)	116,655	116,158



	前事業年度 (平成21年2月28日)	当事業年度 (平成22年2月28日)
貸倒引当金	213,340	197,421
投資その他の資産合計	1,243,487	1,421,569
固定資産合計	3,185,878	3,472,930
資産合計	6,270,401	5,838,273
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,426,997	1,692,094
短期借入金	1 88,400	1 332,800
1年内返済予定の長期借入金	1 451,324	1 373,068
リース債務	-	18,509
未払金	284,526	277,837
未払法人税等	135,772	82,715
未払消費税等	29,104	21,940
前受金	5,497	5,287
預り金	187,619	184,571
賞与引当金	30,322	31,304
その他	-	10,000
流動負債合計	3,639,565	3,030,128
固定負債		
長期借入金	1 389,140	1 292,478
リース債務	-	64,722
退職給付引当金	78,803	81,273
役員退職慰労引当金	109,225	127,251
長期預り保証金	29,663	20,653
固定負債合計	606,832	586,380
負債合計	4,246,397	3,616,508
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	320,300	320,300
資本剰余金		
資本準備金	259,600	259,600
資本剰余金合計	259,600	259,600
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	12,000	12,000
繰越利益剰余金	1,431,769	1,629,588
利益剰余金合計	1,443,769	1,641,588
株主資本合計	2,023,669	2,221,488
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	334	275
評価・換算差額等合計	334	275
純資産合計	2,024,004	2,221,764
負債純資産合計	6,270,401	5,838,273

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成20年 3月 1日 至 平成21年 2月 28日)	当事業年度 (自 平成21年 3月 1日 至 平成22年 2月 28日)
売上高	18,546,808	19,753,206
売上原価		
商品期首たな卸高	1,241,058	1,436,063
当期商品仕入高	14,086,060	14,853,874
合計	15,327,118	16,289,937
商品期末たな卸高	1,436,063	1,406,243
商品売上原価	13,891,055	14,883,693
売上総利益	4,655,752	4,869,513
販売費及び一般管理費	<sub>1</sub> 3,939,839	<sub>1</sub> 4,393,778
営業利益	715,913	475,734
営業外収益		
受取利息	5,325	7,259
受取手数料	17,091	25,571
固定資産賃貸料	56,274	56,221
その他	25,235	19,789
営業外収益合計	103,926	108,842
営業外費用		
支払利息	15,992	12,850
固定資産賃貸費用	51,388	51,537
その他	2,159	2,307
営業外費用合計	69,541	66,695
経常利益	750,299	517,881
特別利益		
貸倒引当金戻入額	13,711	15,918
特別利益合計	13,711	15,918
特別損失		
固定資産除却損	<sub>2</sub> 1,206	-
減損損失	-	<sub>3</sub> 10,027
特別損失合計	1,206	10,027
税引前当期純利益	762,803	523,771
法人税、住民税及び事業税	313,000	231,000
法人税等調整額	23,165	3,987
法人税等合計	336,165	234,987
当期純利益	426,637	288,784

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成20年 3月 1日 至 平成21年 2月28日)	当事業年度 (自 平成21年 3月 1日 至 平成22年 2月28日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	320,300	320,300
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	320,300	320,300
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
前期末残高	259,600	259,600
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	259,600	259,600
<b>資本剰余金合計</b>		
前期末残高	259,600	259,600
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	259,600	259,600
<b>利益剰余金</b>		
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>別途積立金</b>		
前期末残高	12,000	12,000
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	12,000	12,000
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	1,096,097	1,431,769
当期変動額		
剰余金の配当	90,965	90,965
当期純利益	426,637	288,784
当期変動額合計	335,672	197,819
当期末残高	1,431,769	1,629,588
<b>利益剰余金合計</b>		
前期末残高	1,108,097	1,443,769
当期変動額		
剰余金の配当	90,965	90,965
当期純利益	426,637	288,784
当期変動額合計	335,672	197,819
当期末残高	1,443,769	1,641,588
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	1,687,997	2,023,669
当期変動額		
剰余金の配当	90,965	90,965
当期純利益	426,637	288,784
当期変動額合計	335,672	197,819
当期末残高	2,023,669	2,221,488

	前事業年度 (自 平成20年 3月 1日 至 平成21年 2月28日)	当事業年度 (自 平成21年 3月 1日 至 平成22年 2月28日)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	1,229	334
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	895	58
<b>当期変動額合計</b>	895	58
<b>当期末残高</b>	334	275
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	1,229	334
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	895	58
<b>当期変動額合計</b>	895	58
<b>当期末残高</b>	334	275
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	1,689,226	2,024,004
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	90,965	90,965
当期純利益	426,637	288,784
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	895	58
<b>当期変動額合計</b>	334,777	197,760
<b>当期末残高</b>	2,024,004	2,221,764

【重要な会計方針】

項目	第24期 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	第25期 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法	(1) 子会社株式 同左 (2) その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	(1) 店舗在庫商品 売価還元法による原価法 (2) センター在庫商品 移動平均法による原価法 (3) 貯蔵品 最終仕入原価法	(1) 店舗在庫商品 売価還元法による低価法 (2) センター在庫商品 移動平均法による原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) (3) 貯蔵品 最終仕入原価法 (貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) (会計方針の変更) 当事業年度より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日公表分)が適用されたことに伴い、通常の販売目的で保有する配送センター内の商品につきましては、従来、移動平均法による原価法によっておりましたが、移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)に変更しております。また、店舗在庫商品の評価基準及び評価方法につきましては、従来、売価還元法による原価法によっておりましたが、当事業年度より売価還元法による低価法に変更しております。 この結果、従来の方法によった場合と比較して、当事業年度の売上総利益、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ16,446千円減少しております。

項目	第24期 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	第25期 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法によっております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。 なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。 （追加情報） 法人税法の改正（「所得税法等の一部を改正する法律」（平成19年3月30日法律第6号））及び「法人税法施行令の一部を改正する政令」（平成19年3月30日政令第83号）に伴い、平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に達した事業年度の翌事業年度より取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。 これにより営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ1,977千円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法によっております。 なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。 ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。</p> <p>(3) 長期前払費用 均等償却によっております。 なお、償却期間については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法によっております。 ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。 なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(4) 長期前払費用 同左</p>

項目	第24期 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	第25期 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
	(4) 投資不動産 定率法によっております。 なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。	(5) 投資不動産 同左
4. 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 (2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。 (3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 (4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。	(1) 貸倒引当金 同左 (2) 賞与引当金 同左 (3) 退職給付引当金 同左 (4) 役員退職慰労引当金 同左
5. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	—
6. ヘッジ会計の方法	(1) ヘッジ会計の方法 金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利スワップ 金利キャップ ヘッジ対象・・・借入金利 (3) ヘッジ方針 金利変動リスクの低減のため、金利スワップ及び金利キャップを行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。 (4) ヘッジ有効性評価の方法 金利スワップ及び金利キャップについては、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。	(1) ヘッジ会計の方法 金利キャップについては、特例処理の要件を満たしておりますので、特例処理を採用しております。 (2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段・・・金利キャップ ヘッジ対象・・・借入金利 (3) ヘッジ方針 金利変動リスクの低減のため、金利キャップを行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。 (4) ヘッジ有効性評価の方法 金利キャップについては、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。
7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計方針の変更】

前事業年度 (自 平成20年3月1日 至 平成21年2月28日)	当事業年度 (自 平成21年3月1日 至 平成22年2月28日)
	<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>当事業年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一分会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理から通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更し、リース資産として計上しております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>この変更に伴う当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

第24期 (平成21年2月28日)		第25期 (平成22年2月28日)	
<p>1 担保に供している資産</p> <p>定期預金 20,000千円</p> <p>建物 211,153千円</p> <p>土地 959,839千円</p> <p>投資不動産 115,585千円</p> <hr/> <p>計 1,306,579千円</p> <p>担保付債務</p> <p>短期借入金 38,400千円</p> <p>1年内返済予定の長期借入金 417,996千円</p> <p>長期借入金 389,140千円</p> <hr/> <p>計 845,536千円</p>	<p>1 担保に供している資産</p> <p>建物 197,596千円</p> <p>土地 786,856千円</p> <p>投資不動産 116,158千円</p> <hr/> <p>計 1,100,611千円</p> <p>担保付債務</p> <p>短期借入金 302,800千円</p> <p>1年内返済予定の長期借入金 333,132千円</p> <p>長期借入金 232,394千円</p> <hr/> <p>計 868,326千円</p>		



( 損益計算書関係 )

第24期 ( 自 平成20年 3 月 1 日 至 平成21年 2 月28日 )	第25期 ( 自 平成21年 3 月 1 日 至 平成22年 2 月28日 )																																																								
<p>1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>発送配達費</td><td style="text-align: right;">487,707千円</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td style="text-align: right;">90,050千円</td></tr> <tr><td>給与手当賞与</td><td style="text-align: right;">582,288千円</td></tr> <tr><td>雑給</td><td style="text-align: right;">632,492千円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">30,322千円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">8,339千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">19,187千円</td></tr> <tr><td>水道光熱費</td><td style="text-align: right;">280,601千円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;">1,102,621千円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">88,997千円</td></tr> </table> <p>販売費に属する費用と一般管理費に属する費用の割合は概ね次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>販売費に属する費用</td><td style="text-align: right;">86%</td></tr> <tr><td>一般管理費に属する費用</td><td style="text-align: right;">14%</td></tr> </table> <p>2 固定資産除却損の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>  工具器具備品</td><td style="text-align: right;">1,206千円</td></tr> </table>	発送配達費	487,707千円	役員報酬	90,050千円	給与手当賞与	582,288千円	雑給	632,492千円	賞与引当金繰入額	30,322千円	退職給付費用	8,339千円	役員退職慰労引当金繰入額	19,187千円	水道光熱費	280,601千円	地代家賃	1,102,621千円	減価償却費	88,997千円	販売費に属する費用	86%	一般管理費に属する費用	14%	工具器具備品	1,206千円	<p>1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>発送配達費</td><td style="text-align: right;">532,221千円</td></tr> <tr><td>役員報酬</td><td style="text-align: right;">87,774千円</td></tr> <tr><td>給与手当賞与</td><td style="text-align: right;">621,882千円</td></tr> <tr><td>雑給</td><td style="text-align: right;">752,440千円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">31,304千円</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">11,936千円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">18,789千円</td></tr> <tr><td>水道光熱費</td><td style="text-align: right;">284,836千円</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td style="text-align: right;">1,288,385千円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">113,348千円</td></tr> </table> <p>販売費に属する費用と一般管理費に属する費用の割合は概ね次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>販売費に属する費用</td><td style="text-align: right;">87%</td></tr> <tr><td>一般管理費に属する費用</td><td style="text-align: right;">13%</td></tr> </table> <p>3 減損損失</p> <p>当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失10,027千円を計上しております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>場所</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>店舗( 2 店舗)</td> <td>茨城県、千葉県</td> <td>建物、構築物 長期前払費用</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、キャッシュ・フローを生み出す最小の単位として、店舗ごとに資産のグルーピングを行っております。</p> <p>閉店が決定した店舗については、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、減損損失( 10,027千円 )として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物7,087千円、構築物1,715千円、長期前払費用1,225千円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額によっており、零としております。</p>	発送配達費	532,221千円	役員報酬	87,774千円	給与手当賞与	621,882千円	雑給	752,440千円	賞与引当金繰入額	31,304千円	退職給付費用	11,936千円	役員退職慰労引当金繰入額	18,789千円	水道光熱費	284,836千円	地代家賃	1,288,385千円	減価償却費	113,348千円	販売費に属する費用	87%	一般管理費に属する費用	13%	用途	場所	種類	店舗( 2 店舗)	茨城県、千葉県	建物、構築物 長期前払費用
発送配達費	487,707千円																																																								
役員報酬	90,050千円																																																								
給与手当賞与	582,288千円																																																								
雑給	632,492千円																																																								
賞与引当金繰入額	30,322千円																																																								
退職給付費用	8,339千円																																																								
役員退職慰労引当金繰入額	19,187千円																																																								
水道光熱費	280,601千円																																																								
地代家賃	1,102,621千円																																																								
減価償却費	88,997千円																																																								
販売費に属する費用	86%																																																								
一般管理費に属する費用	14%																																																								
工具器具備品	1,206千円																																																								
発送配達費	532,221千円																																																								
役員報酬	87,774千円																																																								
給与手当賞与	621,882千円																																																								
雑給	752,440千円																																																								
賞与引当金繰入額	31,304千円																																																								
退職給付費用	11,936千円																																																								
役員退職慰労引当金繰入額	18,789千円																																																								
水道光熱費	284,836千円																																																								
地代家賃	1,288,385千円																																																								
減価償却費	113,348千円																																																								
販売費に属する費用	87%																																																								
一般管理費に属する費用	13%																																																								
用途	場所	種類																																																							
店舗( 2 店舗)	茨城県、千葉県	建物、構築物 長期前払費用																																																							

( 株主資本等変動計算書関係 )

前事業年度( 自 平成20年 3 月 1 日 至 平成21年 2 月28日 )

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度( 自 平成21年 3 月 1 日 至 平成22年 2 月28日 )

自己株式の種類及び株式数に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

第24期 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)				第25期 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)			
1.リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引				1.ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 リース資産の内容 有形固定資産 店舗における備品(工具器具備品)であります。 リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月28日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。			
(借主側) (1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額				(借主側) (1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額			
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)
工具器具備品	376,381	175,689	200,691	工具器具備品	269,837	136,970	132,867
合計	376,381	175,689	200,691	合計	269,837	136,970	132,867
(2)未経過リース料期末残高相当額				(2)未経過リース料期末残高相当額			
1年内			68,519千円	1年内			53,307千円
1年超			133,931千円	1年超			80,623千円
合計			202,451千円	合計			133,931千円
(3)支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額				(3)支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額			
支払リース料			74,676千円	支払リース料			63,501千円
減価償却費相当額			72,258千円	減価償却費相当額			61,777千円
支払利息相当額			2,338千円	支払利息相当額			2,154千円
(4)減価償却費相当額の算定方法				(4)減価償却費相当額の算定方法			
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				同左			
(5)利息相当額の算定方法				(5)利息相当額の算定方法			
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。				同左			
				(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。			

(有価証券関係)

前事業年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)及び当事業年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)における子会社株式で時価のあるものはありません。

(企業結合等関係)

前事業年度(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)  
該当事項はありません。

当事業年度(自平成21年3月1日至平成22年2月28日)  
該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

第24期 ( 自 平成20年 3 月 1 日 至 平成21年 2 月28日 )	第25期 ( 自 平成21年 3 月 1 日 至 平成22年 2 月28日 )																																																																												
<p>1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">繰延税金資産 (千円)</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">86,274</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金否認</td> <td style="text-align: right;">12,262</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金否認</td> <td style="text-align: right;">31,868</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金否認</td> <td style="text-align: right;">44,170</td> </tr> <tr> <td>商品評価損否認</td> <td style="text-align: right;">4,293</td> </tr> <tr> <td>未払事業税否認</td> <td style="text-align: right;">11,640</td> </tr> <tr> <td>減価償却費損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">20,773</td> </tr> <tr> <td>減損損失否認</td> <td style="text-align: right;">243,106</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">7,504</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right;">461,896</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">276,845</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">185,051</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">227</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right;">227</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right;">184,824</td> </tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産 - 繰延税金資産</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">35,702</td> </tr> <tr> <td>固定資産 - 繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">149,122</td> </tr> </table>	繰延税金資産 (千円)		貸倒引当金損金算入限度超過額	86,274	賞与引当金否認	12,262	退職給付引当金否認	31,868	役員退職慰労引当金否認	44,170	商品評価損否認	4,293	未払事業税否認	11,640	減価償却費損金算入限度超過額	20,773	減損損失否認	243,106	その他	7,504	繰延税金資産小計	461,896	評価性引当額	276,845	繰延税金資産合計	185,051	繰延税金負債		その他有価証券評価差額金	227	繰延税金負債合計	227	繰延税金資産の純額	184,824	流動資産 - 繰延税金資産	35,702	固定資産 - 繰延税金資産	149,122	<p>1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">繰延税金資産 (千円)</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">79,837</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金否認</td> <td style="text-align: right;">12,659</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金否認</td> <td style="text-align: right;">32,867</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金否認</td> <td style="text-align: right;">51,460</td> </tr> <tr> <td>商品評価損否認</td> <td style="text-align: right;">6,650</td> </tr> <tr> <td>未払事業税否認</td> <td style="text-align: right;">8,366</td> </tr> <tr> <td>減価償却費損金算入限度超過額</td> <td style="text-align: right;">19,383</td> </tr> <tr> <td>減損損失否認</td> <td style="text-align: right;">246,549</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">9,446</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right;">467,221</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">286,157</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right;">181,063</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">187</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right;">187</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産の純額</td> <td style="text-align: right;">180,876</td> </tr> </table> <p>繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産 - 繰延税金資産</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">37,123</td> </tr> <tr> <td>固定資産 - 繰延税金資産</td> <td style="text-align: right;">143,753</td> </tr> </table>	繰延税金資産 (千円)		貸倒引当金損金算入限度超過額	79,837	賞与引当金否認	12,659	退職給付引当金否認	32,867	役員退職慰労引当金否認	51,460	商品評価損否認	6,650	未払事業税否認	8,366	減価償却費損金算入限度超過額	19,383	減損損失否認	246,549	その他	9,446	繰延税金資産小計	467,221	評価性引当額	286,157	繰延税金資産合計	181,063	繰延税金負債		その他有価証券評価差額金	187	繰延税金負債合計	187	繰延税金資産の純額	180,876	流動資産 - 繰延税金資産	37,123	固定資産 - 繰延税金資産	143,753
繰延税金資産 (千円)																																																																													
貸倒引当金損金算入限度超過額	86,274																																																																												
賞与引当金否認	12,262																																																																												
退職給付引当金否認	31,868																																																																												
役員退職慰労引当金否認	44,170																																																																												
商品評価損否認	4,293																																																																												
未払事業税否認	11,640																																																																												
減価償却費損金算入限度超過額	20,773																																																																												
減損損失否認	243,106																																																																												
その他	7,504																																																																												
繰延税金資産小計	461,896																																																																												
評価性引当額	276,845																																																																												
繰延税金資産合計	185,051																																																																												
繰延税金負債																																																																													
その他有価証券評価差額金	227																																																																												
繰延税金負債合計	227																																																																												
繰延税金資産の純額	184,824																																																																												
流動資産 - 繰延税金資産	35,702																																																																												
固定資産 - 繰延税金資産	149,122																																																																												
繰延税金資産 (千円)																																																																													
貸倒引当金損金算入限度超過額	79,837																																																																												
賞与引当金否認	12,659																																																																												
退職給付引当金否認	32,867																																																																												
役員退職慰労引当金否認	51,460																																																																												
商品評価損否認	6,650																																																																												
未払事業税否認	8,366																																																																												
減価償却費損金算入限度超過額	19,383																																																																												
減損損失否認	246,549																																																																												
その他	9,446																																																																												
繰延税金資産小計	467,221																																																																												
評価性引当額	286,157																																																																												
繰延税金資産合計	181,063																																																																												
繰延税金負債																																																																													
その他有価証券評価差額金	187																																																																												
繰延税金負債合計	187																																																																												
繰延税金資産の純額	180,876																																																																												
流動資産 - 繰延税金資産	37,123																																																																												
固定資産 - 繰延税金資産	143,753																																																																												
<p>2 . 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: center;">( % )</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率 (調整)</td> <td style="text-align: right;">40.4</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割額</td> <td style="text-align: right;">1.1</td> </tr> <tr> <td>法人税留保金課税</td> <td style="text-align: right;">1.2</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額の増減</td> <td style="text-align: right;">1.3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right;">44.1</td> </tr> </table>		( % )	法定実効税率 (調整)	40.4	住民税均等割額	1.1	法人税留保金課税	1.2	評価性引当額の増減	1.3	その他	0.1	税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.1	<p>2 . 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="width: 20%; text-align: center;">( % )</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率 (調整)</td> <td style="text-align: right;">40.4</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割額</td> <td style="text-align: right;">1.7</td> </tr> <tr> <td>法人税留保金課税</td> <td style="text-align: right;">0.5</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額の増減</td> <td style="text-align: right;">1.8</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.5</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right;">44.9</td> </tr> </table>		( % )	法定実効税率 (調整)	40.4	住民税均等割額	1.7	法人税留保金課税	0.5	評価性引当額の増減	1.8	その他	0.5	税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.9																																																
	( % )																																																																												
法定実効税率 (調整)	40.4																																																																												
住民税均等割額	1.1																																																																												
法人税留保金課税	1.2																																																																												
評価性引当額の増減	1.3																																																																												
その他	0.1																																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.1																																																																												
	( % )																																																																												
法定実効税率 (調整)	40.4																																																																												
住民税均等割額	1.7																																																																												
法人税留保金課税	0.5																																																																												
評価性引当額の増減	1.8																																																																												
その他	0.5																																																																												
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.9																																																																												
<p>3 . 法定実効税率の変更</p> <p>繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は40.1%から40.4%に変更しております。この変更による影響額は軽微であります。</p>																																																																													

( 1株当たり情報 )

第24期 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	第25期 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
1株当たり純資産額 157円98銭	1株当たり純資産額 173円41銭
1株当たり当期純利益金額 33円30銭	1株当たり当期純利益金額 22円54銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第24期 (平成21年2月28日)	第25期 (平成22年2月28日)
純資産の部の合計額(千円)	2,024,004	2,221,764
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期末の純資産額(千円)	2,024,004	2,221,764
1株当たり純資産額の算定に用いられた当期末の普通株式の数(株)	12,812,000	12,812,000

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第24期 (自平成20年3月1日 至平成21年2月28日)	第25期 (自平成21年3月1日 至平成22年2月28日)
当期純利益(千円)	426,637	288,784
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	426,637	288,784
期中平均株式数(株)	12,812,000	12,812,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産総額の100分の1以下のため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,214,382	90,648	7,087 (7,087)	1,297,943	728,955	56,956	568,987
構築物	306,928	10,786	1,715 (1,715)	315,999	200,617	14,805	115,381
車両運搬具	23,915	3,895	-	27,810	18,419	5,303	9,391
工具、器具及び備品	195,934	27,736	296	223,374	176,409	23,819	46,965
土地	1,069,978	-	-	1,069,978	-	-	1,069,978
リース資産	-	89,612	-	89,612	10,992	10,992	78,619
有形固定資産計	2,811,140	222,677	9,098 (8,802)	3,024,718	1,135,394	111,877	1,889,324
無形固定資産							
借地権	143,133	-	-	143,133	-	-	143,133
ソフトウェア	6,521	8,591	2,970	12,142	2,897	1,578	9,244
その他	11,042	-	976	10,066	408	32	9,658
無形固定資産計	160,697	8,591	3,946	165,341	3,305	1,610	162,036
長期前払費用	77,087	39,441	5,920 (1,225)	110,608	27,080	10,388	83,528

(注) 当期の主な増減内容は次のとおりであります。

建物・構築物の当期増加額の主な内容は、新規11店舗の新規出店に伴う設備工事・看板設置等によるものであります。

工具、器具及び備品の当期増加額の主な内容は、新規11店舗のOA機器等の取得及び既存店舗の冷凍什器等の取得によるものであります。

リース資産の当期増加額の主な内容は、新規11店舗の陳列什器等の取得によるものであります。

「当期減少額」欄の( )内は内書で、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	213,400	1,060	-	16,978	197,481
賞与引当金	30,322	31,304	30,322	-	31,304
役員退職慰労引当金	109,225	18,789	762	-	127,251

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)のうち60千円は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であり、16,918千円

は、回収等による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	393,612
預金	
当座預金	31,989
普通預金	191,427
別段預金	817
定期預金	6,007
定期積金	6,000
小計	236,241
合計	629,854

売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
新光商事(株)	24,538
加藤産業(株)	8,701
(株)日本アクセス	7,749
(株)麻友	5,847
(株)タイハイ	5,743
その他	85,922
合計	138,504

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日) (A) + (D)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	2 (B) 365
171,192	1,319,176	1,351,865	138,504	90.7	43

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

商品

品目	金額(千円)
衣料服飾・インテリア	145,567
日用品・家庭用品	758,897
食料品	444,603
酒類	55,792
その他商品	1,383
合計	1,406,243

貯蔵品

品目	金額(千円)
事務用消耗品	6,239
包装用品	1,996
その他	2,339
合計	10,576

敷金及び保証金

相手先	金額(千円)
(有)ミサキ	96,421
(株)ユニクロ	90,000
ダイワロイヤル(株)	77,664
(有)照商	41,522
ヒロ・リアルエステート(株)	36,144
その他	733,787
合計	1,075,541

買掛金

相手先	金額(千円)
(株)日本アクセス	184,491
加藤産業(株)	124,369
(株)高山	86,003
(株)麻友	80,802
(株)あらた	79,569
その他	1,136,857
合計	1,692,094



短期借入金

相手先	金額(千円)
(株)みずほ銀行	252,800
(株)商工組合中央金庫	50,000
(株)常陽銀行	30,000
合計	332,800

1年内返済予定の長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)みずほ銀行	212,820
(株)千葉銀行	91,762
(株)三菱東京UFJ銀行	39,936
(株)商工組合中央金庫	28,550
合計	373,068

長期借入金

相手先	金額(千円)
(株)みずほ銀行	145,750
(株)千葉銀行	75,254
(株)三菱東京UFJ銀行	60,084
(株)商工組合中央金庫	11,390
合計	292,478

(3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日、2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL <a href="http://www.jason.co.jp">http://www.jason.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第24期）（自平成20年3月1日至平成21年2月28日）平成21年5月29日関東財務局長に提出。

(2) 四半期報告書及び確認書

（第25期第1四半期）（自平成21年3月1日至平成21年5月31日）平成21年7月15日関東財務局長に提出。

（第25期第2四半期）（自平成21年6月1日至平成21年8月31日）平成21年10月15日関東財務局長に提出。

出。

（第25期第3四半期）（自平成21年9月1日至平成21年11月30日）平成22年1月14日関東財務局長に提出。

出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成21年 5月28日

株式会社 ジェーソン  
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡邊 宣昭 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 堀切 進 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小出 健治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジェーソンの平成20年3月1日から平成21年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジェーソン及び連結子会社の平成21年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 5月28日

株式会社 ジェーソン  
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡邊 宣昭 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 堀切 進 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小出 健治 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジェーソンの平成21年3月1日から平成22年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジェーソン及び連結子会社の平成22年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

「連結財務諸表の作成のための基本となる重要な事項」に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ジェーソンの平成22年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社ジェーソンが平成22年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。  
2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成21年 5月28日

株式会社 ジェーソン  
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡邊 宣昭 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 堀切 進 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小出 健治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジェーソンの平成20年3月1日から平成21年2月28日までの第24期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジェーソンの平成21年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年 5月28日

株式会社 ジェーソン  
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡邊 宣昭 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 堀切 進 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小出 健治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ジェーソンの平成21年3月1日から平成22年2月28日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジェーソンの平成22年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

「重要な会計方針」に記載されているとおり、会社は当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。